

**『平成26年度の生乳及び牛乳乳製品の
需給見通しと今後の課題について』
(平成26年1月23日公表資料)**

詳細内容

平成26年2月26日



一般社団法人 Jミルク
企画情報グループ

項目一覧

I. 予測手法等

II. 見通しについて

1. 地域別生乳生産量の動向

2. 牛乳等生産量の動向

3. 用途別処理量の動向

4. 乳製品需給の動向

5. 国産生乳需給の動向

6. 需給動向を踏まえた今後の課題と対応について

I. 予測手法等

■ 予測項目

1. 生乳の供給量

①北海道、②都府県（都府県全域）

※「生乳生産量－自家消費量(直近の動向を踏まえ設定)＝生乳供給量」

都府県については、地域別(指定団体区域:東北～沖縄の9地域)にも予測は行っているが、予測値の精度向上のため、前回公表時(平成25年12月24日公表)から、都府県全域での予測値を採用している。

2. 牛乳等の生産量

①学乳、②牛乳(業務用除く)、③加工乳、 ④成分調整牛乳、⑤乳飲料、⑥はっ酵乳

「牛乳」については、「①+②+業務用牛乳(前年比100%で設定)」で算出。

3. 特定乳製品の消費量

①脱脂粉乳、②バター

■ 予測手法：予測モデル（ARIMAモデル）による推計値

（AutoRegressive Integrated Moving Average:自己回帰和分移動平均モデル）

ARIMAモデルの特徴：

過去の実績（時系列データ）から傾向を分析し、将来値を予測。よって、生乳や牛乳等のやや安定的に季節変動等をするような対象の予測においては、精度が高い。ただし、過去に事例が無いような急激な変化等については予測が難しい。

■ 予測に用いる主要要素（共通）

a. 実績値（牛乳乳製品統計）

今回の予測では25年11月までの実績値を用いて、25年12月以降を予測。

b. 累積気温※生乳供給量及び牛乳等生産量の予測について

26年度の気温は、平年並みで設定。

■ 予測に用いる主要素(各項目)

1. 生乳の供給量の予測

a. 飼養頭数(家畜改良センター・牛個体識別情報)

※牛個体識別情報の実績データが蓄積されてきたことから採用を検討し、
相関性が高ったことから、前回公表時(12月24日公表)から追加。

「2～7歳(24～95ヶ月齢)頭数」及び「2～4歳(24～59ヶ月齢)頭数」

将来値は、各月齢の毎月の翌月への変化率の過去3ヶ年平均で算出。

b. 妊娠・授精頭数(家畜改良事業団・牛群検定情報)

「妊娠頭数(10ヶ月前・11ヶ月前)」及び「授精頭数(妊娠頭数を予測)」

2. 牛乳等の生産量の予測

a. 平日日数

3. 特定乳製品(脱脂粉乳・バター)の消費量の予測

a. 牛乳等の消費量(加工乳、乳飲料、はっ酵乳)

b. その他乳製品の需要量(脱脂濃縮乳、生クリーム等)

Ⅱ－１．地域別生乳生産量の動向

(1) 見通しの概要

表１－２：平成２６年度の地域別生乳生産量（見通し）（千トン）

26年度	全 国		北海道		都府県	
		前年比		前年比		前年比
4月	633	97.4%	320	97.3%	314	97.6%
5月	654	97.5%	334	97.4%	320	97.5%
6月	625	97.9%	327	98.2%	298	97.6%
7月	623	98.6%	331	99.6%	292	97.5%
8月	605	99.6%	324	100.9%	281	98.3%
9月	585	98.6%	311	100.1%	273	96.8%
10月	601	98.8%	317	100.1%	284	97.4%
11月	581	98.8%	304	100.1%	277	97.4%
12月	609	98.8%	318	99.9%	291	97.6%
1月	622	98.8%	324	99.9%	298	97.7%
2月	574	99.0%	297	100.1%	277	97.8%
3月	641	99.0%	328	100.1%	313	97.9%
Q1	1,912	97.6%	980	97.6%	932	97.6%
Q2	1,813	98.9%	966	100.2%	847	97.5%
Q3	1,791	98.8%	938	100.0%	853	97.5%
Q4	1,837	98.9%	949	100.0%	888	97.8%
上期	3,725	98.2%	1,947	98.9%	1,778	97.5%
下期	3,628	98.9%	1,888	100.0%	1,741	97.7%
年度計	7,354	98.5%	3,834	99.4%	3,519	97.6%

減少

やや減少

減少

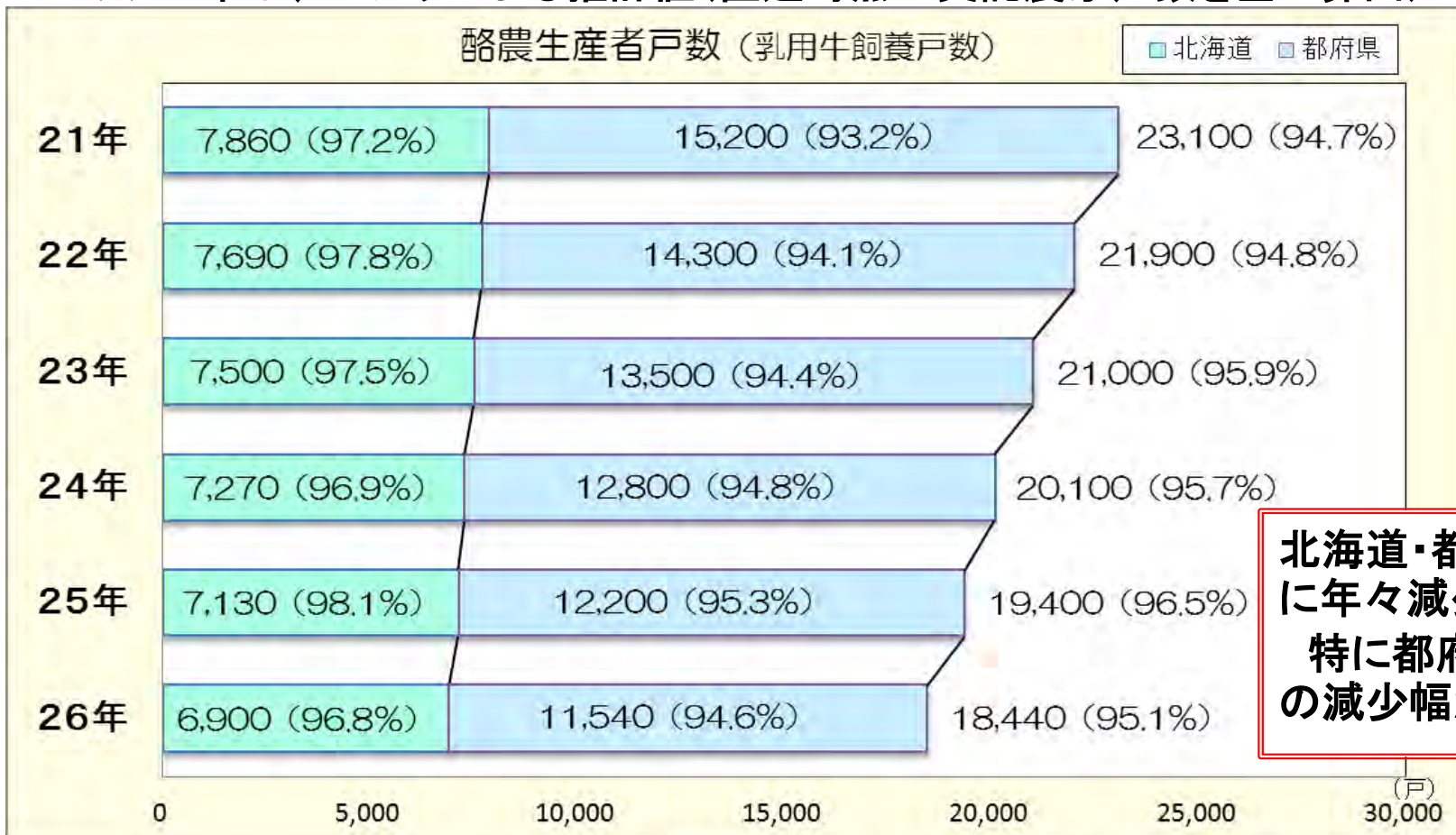
ただし、政府や関係団体による各種対策により、本見通しより、**0.5～1%程度**（40～75千t程度）の増加も見込まれる。

※対策の効果を予測の要素（頭数の変動率等）に数値で組み込むことが難しかったため、併記とした。

Ⅱ－1．地域別生乳生産量の動向

(2) 「酪農生産者戸数」の推移(「畜産統計」毎年2月1日時点)

※26年は、Jミルクによる推計値(直近時点の受託農家戸数を基に算出)

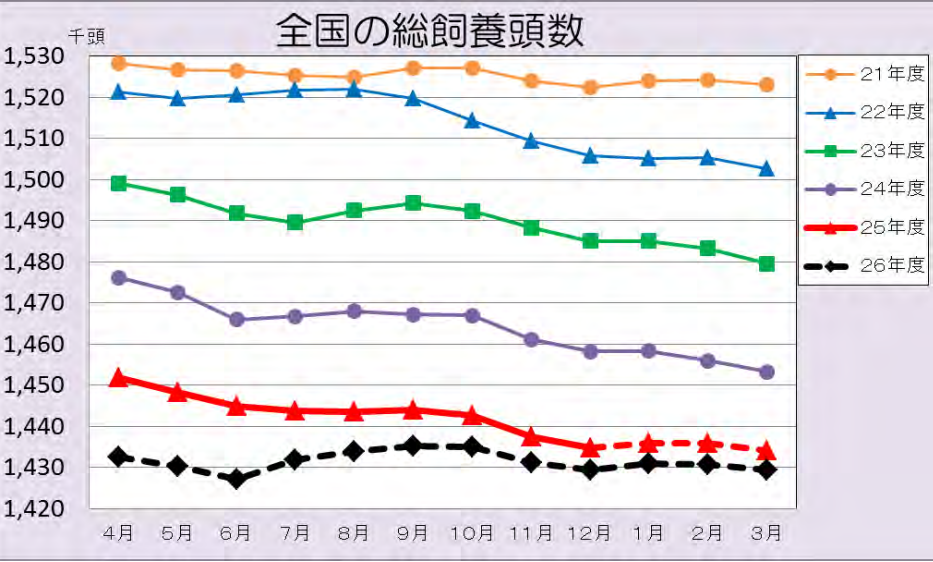


↓ 1戸当たりの飼養頭数は(伸び率は鈍化しつつも)増加しているが…

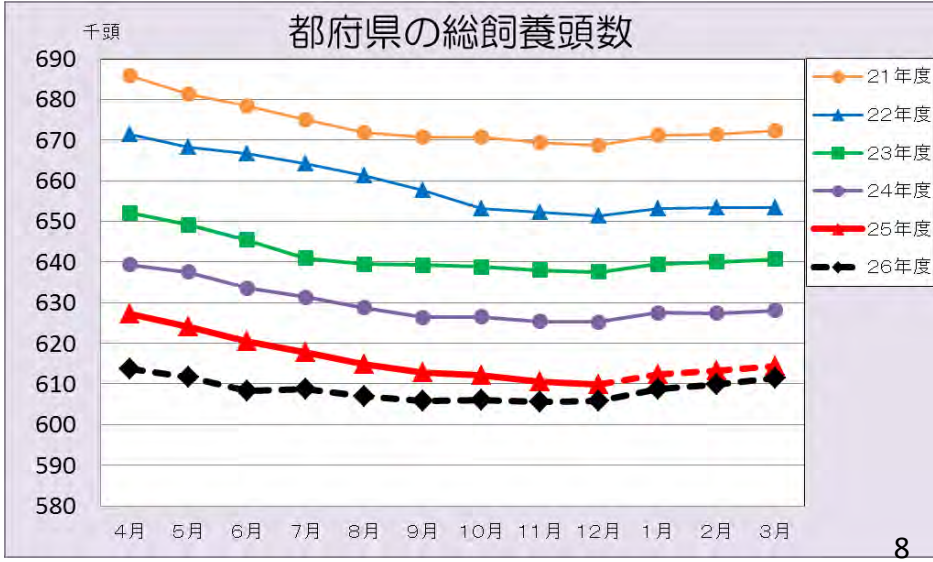
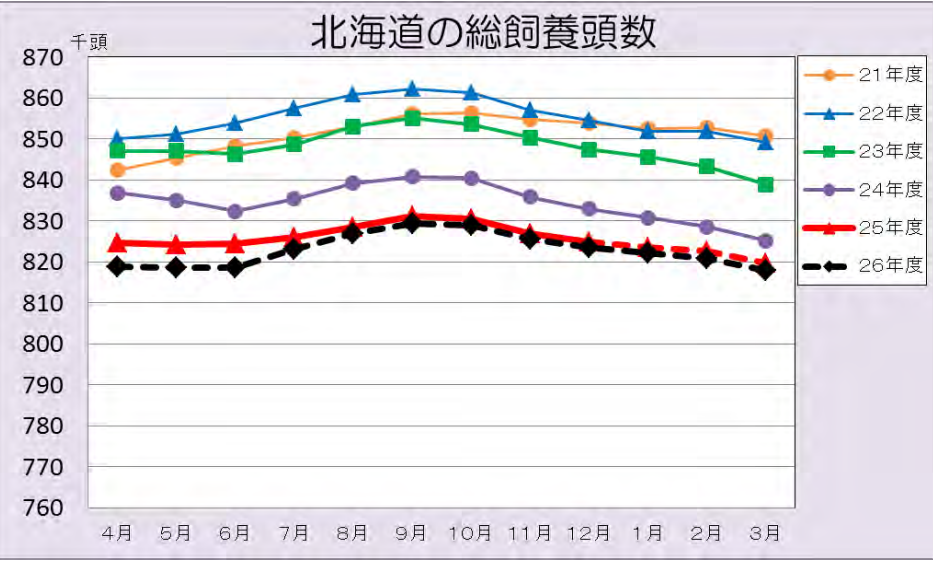
Ⅱ - 1. 地域別生乳生産量の動向

(3) 「総飼養頭数」の推移(「牛個体識別情報(速報値)」毎月1日時点)

※25年1月以降(点線部分)は、Jミルクによる予測値(過去3ヶ年平均の変化率で算出)

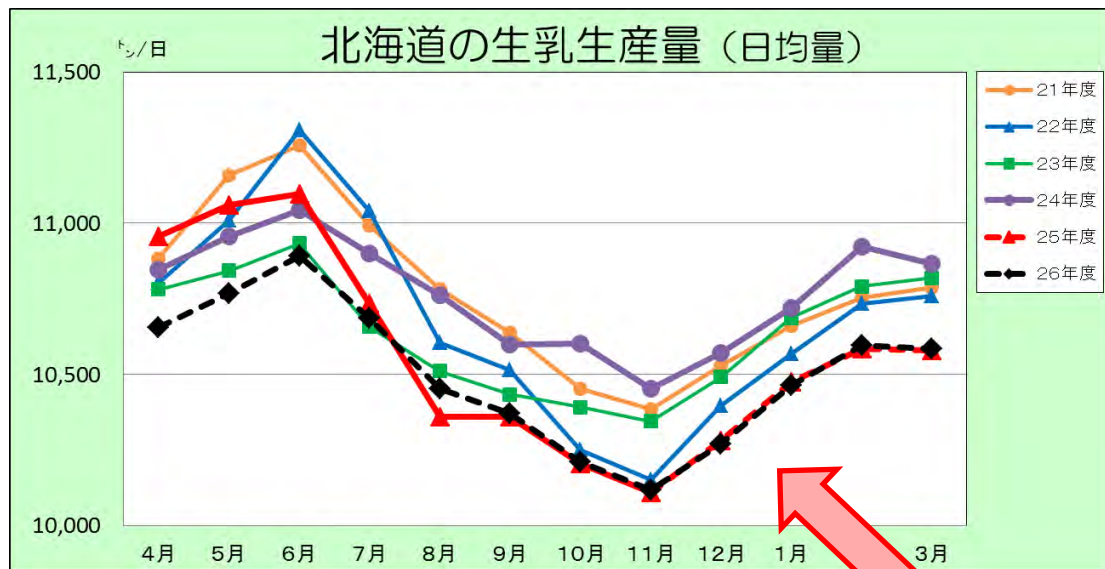


**北海道・都府県ともに、年々減少傾向。
特に都府県で、その減少幅が大きい。**



Ⅱ－１．地域別生乳生産量の動向

(4) 北海道の「生乳生産量」と「飼養頭数」の比較

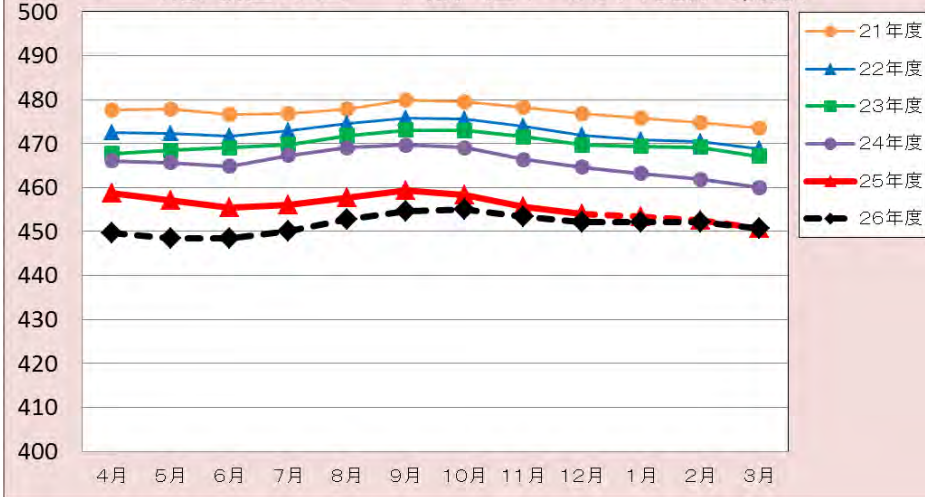


24年度の頭数は、前年度を上回って推移。
(⇒生乳生産量の増加)

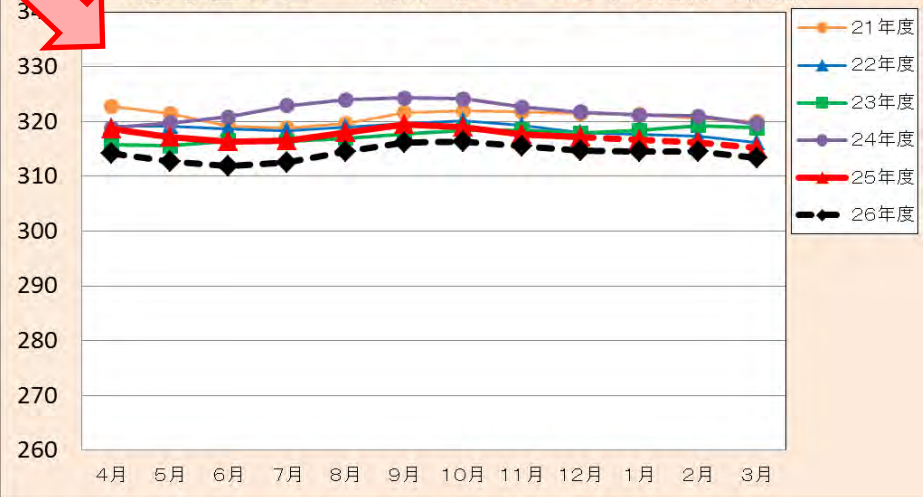
25年度は減少傾向で推移。

26年度も減少傾向で推移する見込み。

北海道の2～7歳（24～95ヶ月齢）頭数

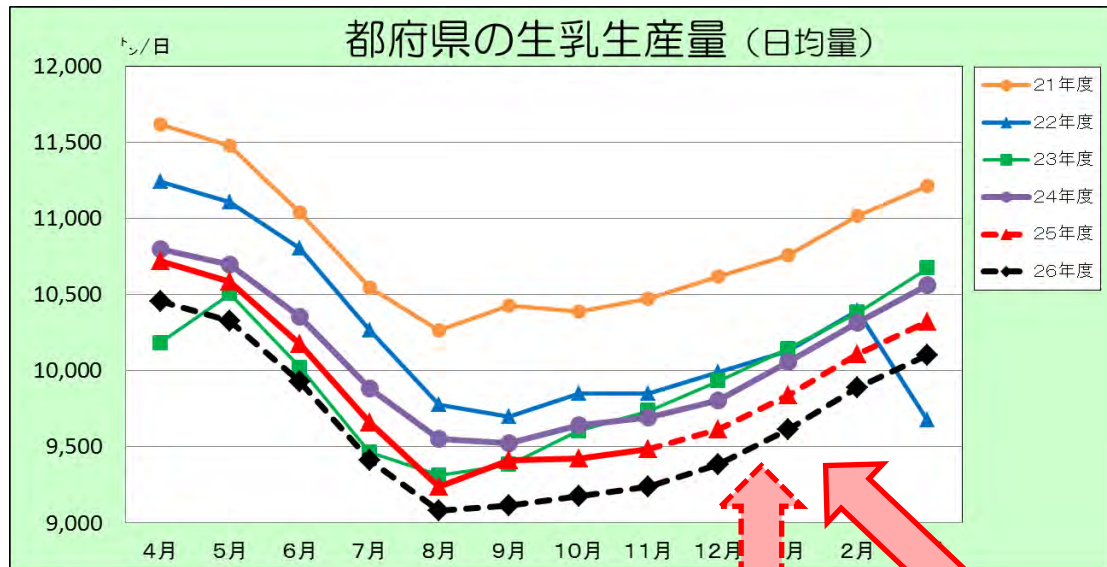


北海道の2～4歳（24～59ヶ月齢）頭数



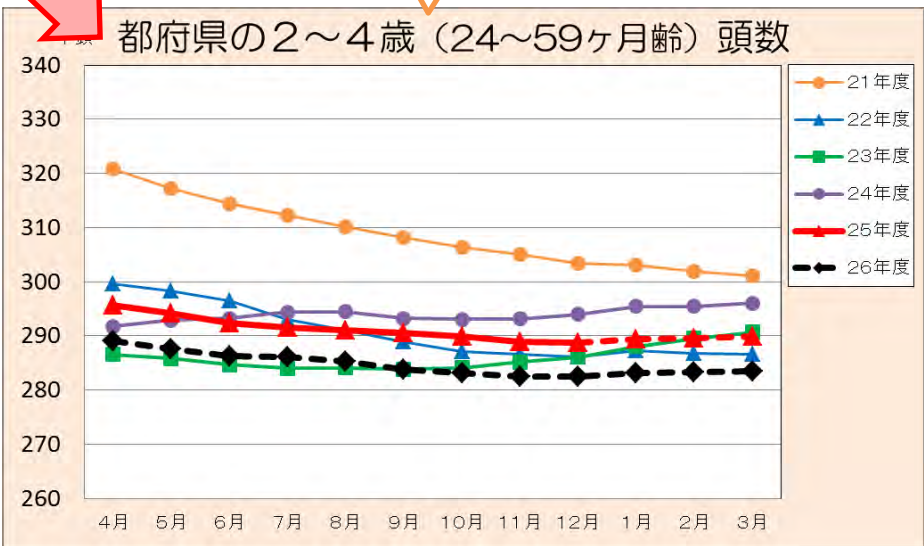
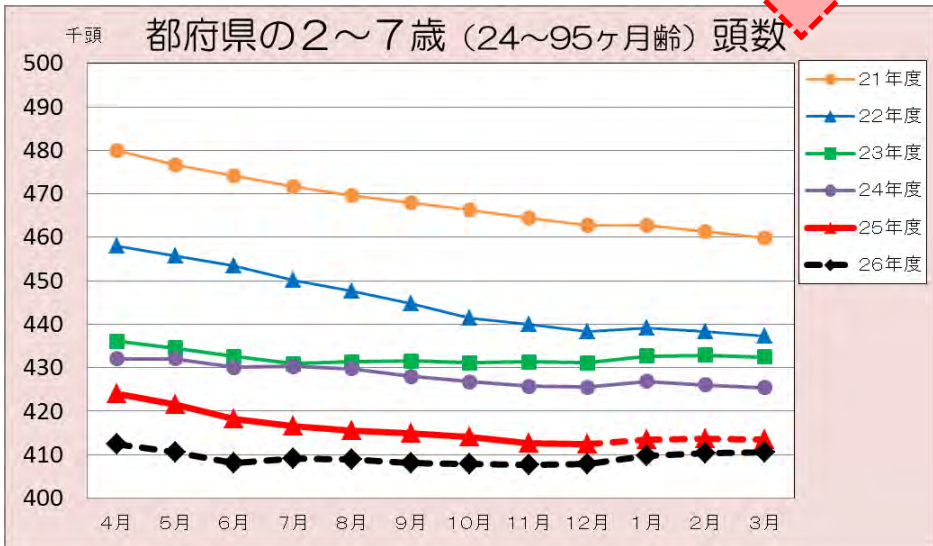
Ⅱ－1．地域別生乳生産量の動向

(5) 都府県の「生乳生産量」と「飼養頭数」の比較



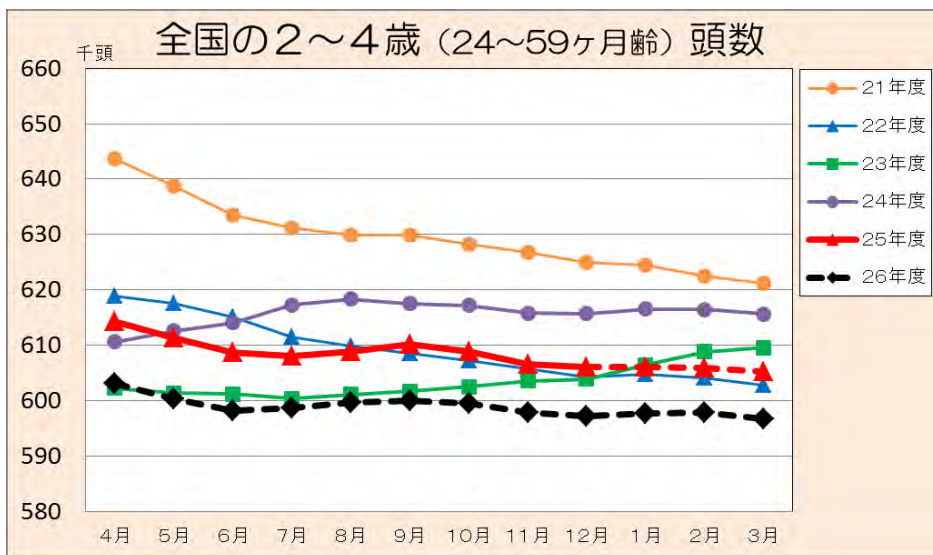
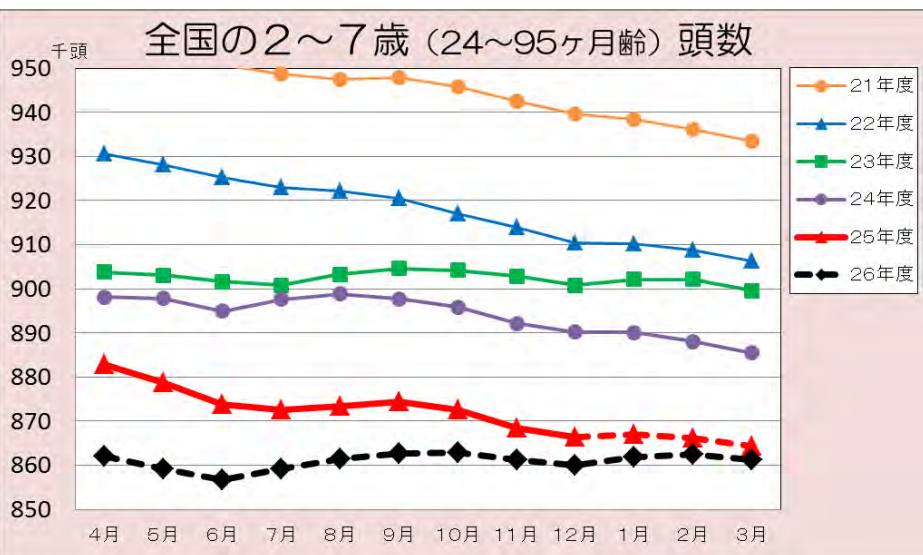
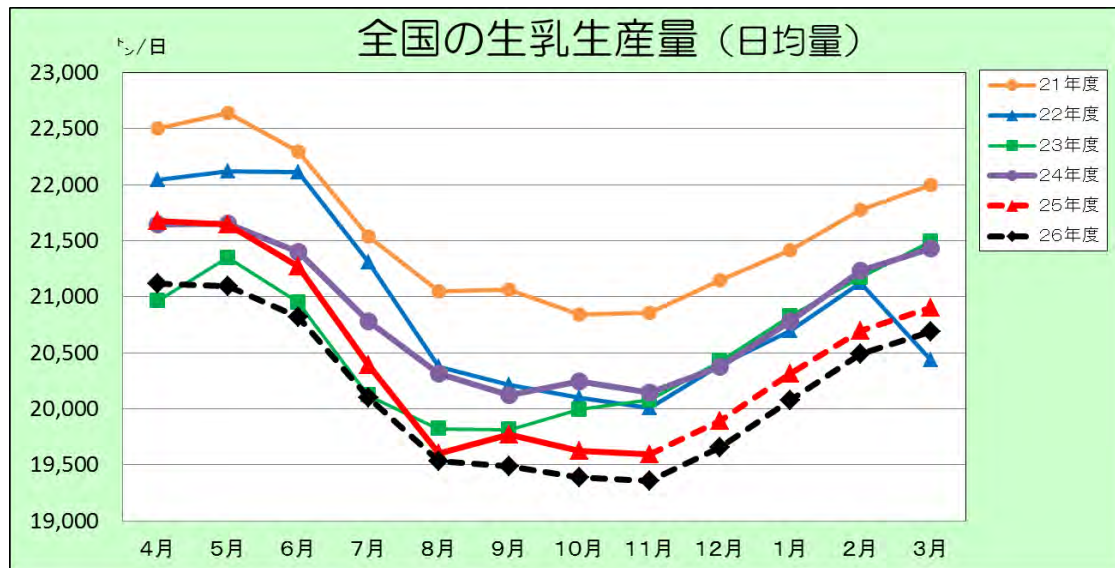
24年度の頭数は、前年度を上回って推移。
 (⇒生乳生産量の増加)

25年度は減少傾向で推移。
26年度も減少傾向で推移する見込み。



Ⅱ－１．地域別生乳生産量の動向

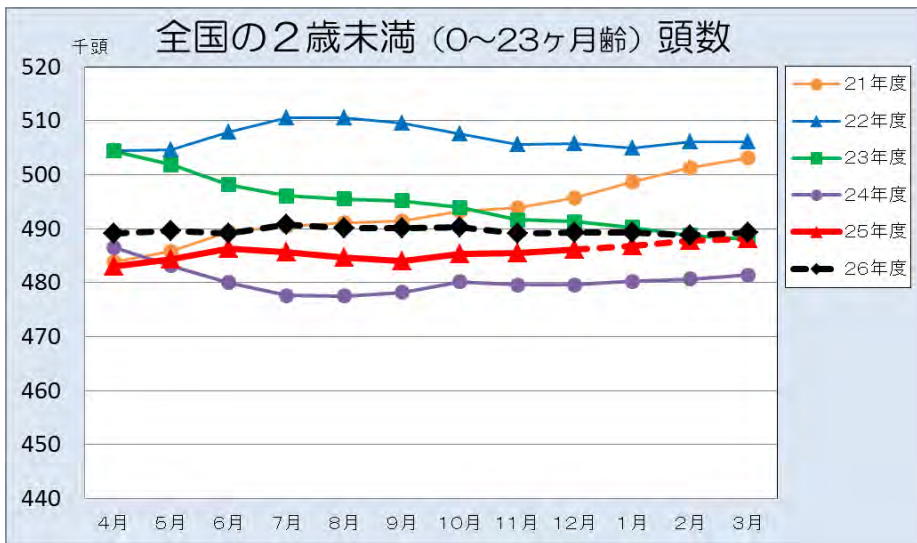
(6) 全国の「生乳生産量」と「飼養頭数」の比較



Ⅱ－1. 地域別生乳生産量の動向

(7) 「2歳未満の飼養頭数」の推移(各月1日時点・速報値)

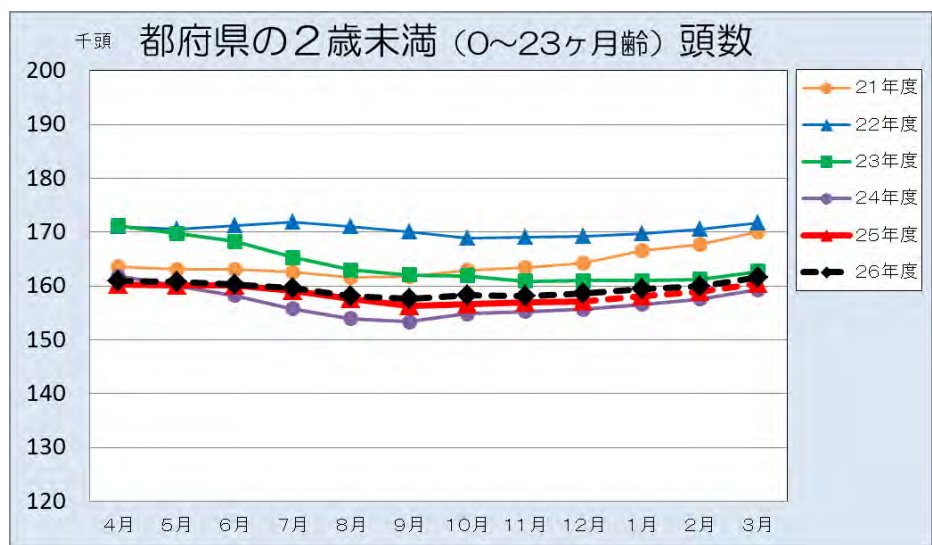
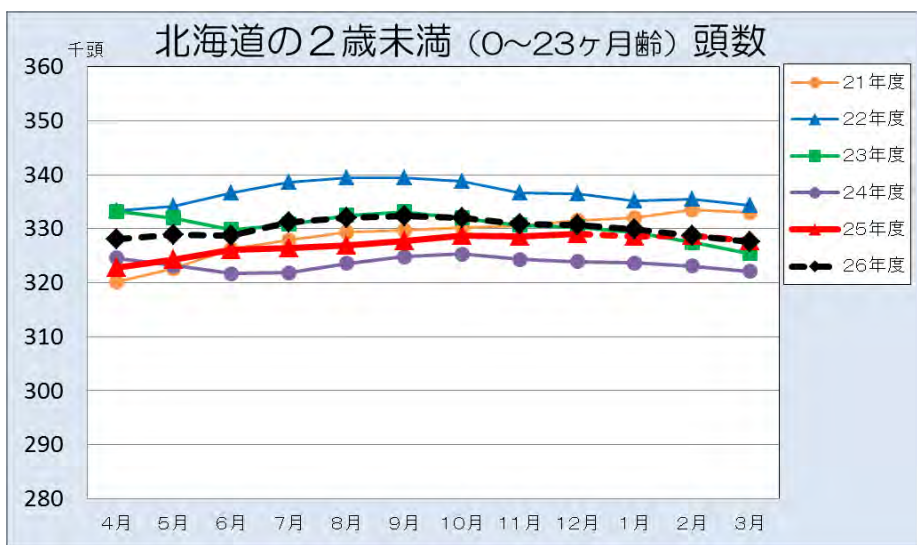
※25年1月以降(点線部分)は、Jミルクによる予測値(出生頭数も過去3ヶ年平均で算出)



22年度は、北海道・都府県ともに、前年度を上回って推移。(⇒主に、24年度の2歳以上頭数に影響 ⇒ 生乳生産量の増加)

23~24年度は減少傾向で推移。

25年度は増加傾向に転じており、26年度も増加傾向で推移する見込み。(⇒27年度以降の生乳生産量の増加に期待。)



Ⅱ－２．牛乳等生産量の動向

(1) 見通しの概要

表2－2：平成26年度の牛乳等生産量（見通し）

(千k1)

26年度	牛乳類		牛乳		加工乳		成分調整牛乳		乳飲料		はっ酵乳	
		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比
4月	390	99.1%	241	98.0%	11	99.0%	29	103.8%	109	100.3%	88	97.6%
5月	418	98.6%	260	98.0%	11	104.9%	30	103.0%	117	98.4%	91	100.2%
6月	418	99.2%	259	98.6%	11	109.2%	30	102.6%	119	98.7%	90	102.9%
7月	428	98.3%	257	97.5%	11	109.5%	32	102.8%	128	97.8%	90	103.1%
8月	410	98.4%	237	97.1%	12	111.5%	32	101.6%	130	98.9%	86	101.5%
9月	437	99.8%	269	98.6%	11	108.4%	31	102.0%	126	101.0%	86	102.9%
10月	432	98.5%	267	98.2%	11	100.9%	30	97.3%	124	99.3%	87	104.0%
11月	393	99.3%	247	98.4%	10	92.4%	28	99.1%	108	102.3%	80	103.0%
12月	378	99.5%	237	98.9%	10	91.8%	27	99.0%	104	101.9%	78	104.2%
1月	374	99.0%	234	98.2%	9	90.9%	28	99.0%	103	101.7%	81	102.9%
2月	358	99.6%	227	99.0%	9	91.0%	26	99.0%	96	101.8%	80	103.6%
3月	383	100.0%	235	99.7%	10	91.2%	29	99.0%	109	101.9%	91	104.4%
Q1	1,226	99.0%	759	98.2%	33	104.2%	89	103.1%	345	99.1%	269	100.2%
Q2	1,275	98.8%	763	97.7%	34	109.8%	95	102.1%	384	99.2%	262	102.5%
Q3	1,204	99.1%	752	98.5%	31	95.0%	85	98.4%	335	101.0%	245	103.7%
Q4	1,114	99.5%	696	99.0%	28	91.0%	83	99.0%	308	101.8%	252	103.7%
上期	2,501	98.9%	1,522	98.0%	67	107.0%	184	102.6%	729	99.2%	531	101.3%
下期	2,318	99.3%	1,447	98.7%	60	93.1%	168	98.7%	643	101.4%	498	103.7%
年度計	4,819	99.1%	2,969	98.4%	127	99.9%	352	100.7%	1,371	100.2%	1,029	102.5%

やや減少

やや減少

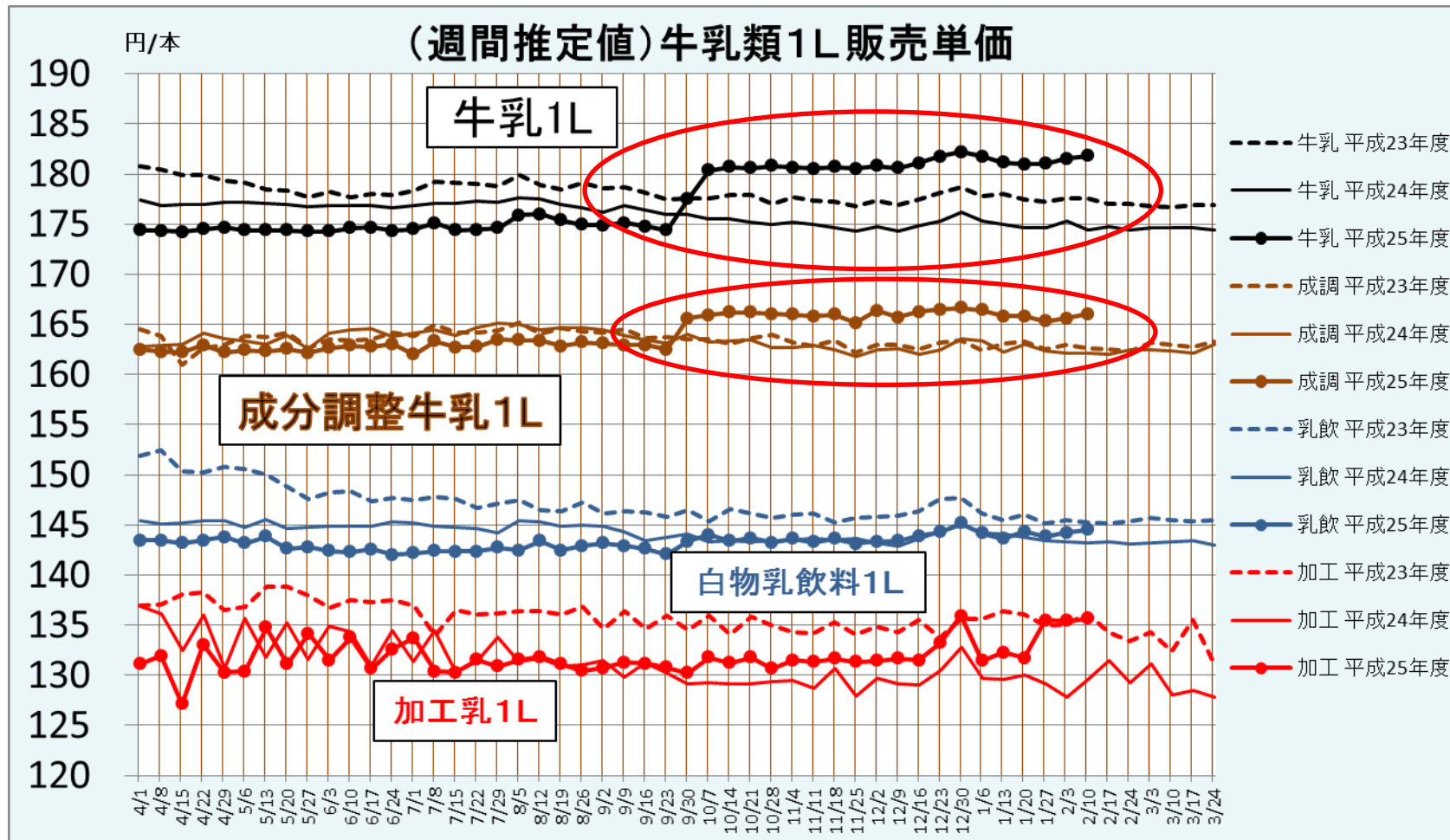
堅調

引き続き
好調

ただし、今後、25年10月の小売価格改定及び26年4月の消費税増税の影響等を注視する必要がある。

Ⅱ－２．牛乳等生産量の動向

(2)「牛乳類の販売価格」の推移(インテージSRI週次データ) ※転載を禁ず

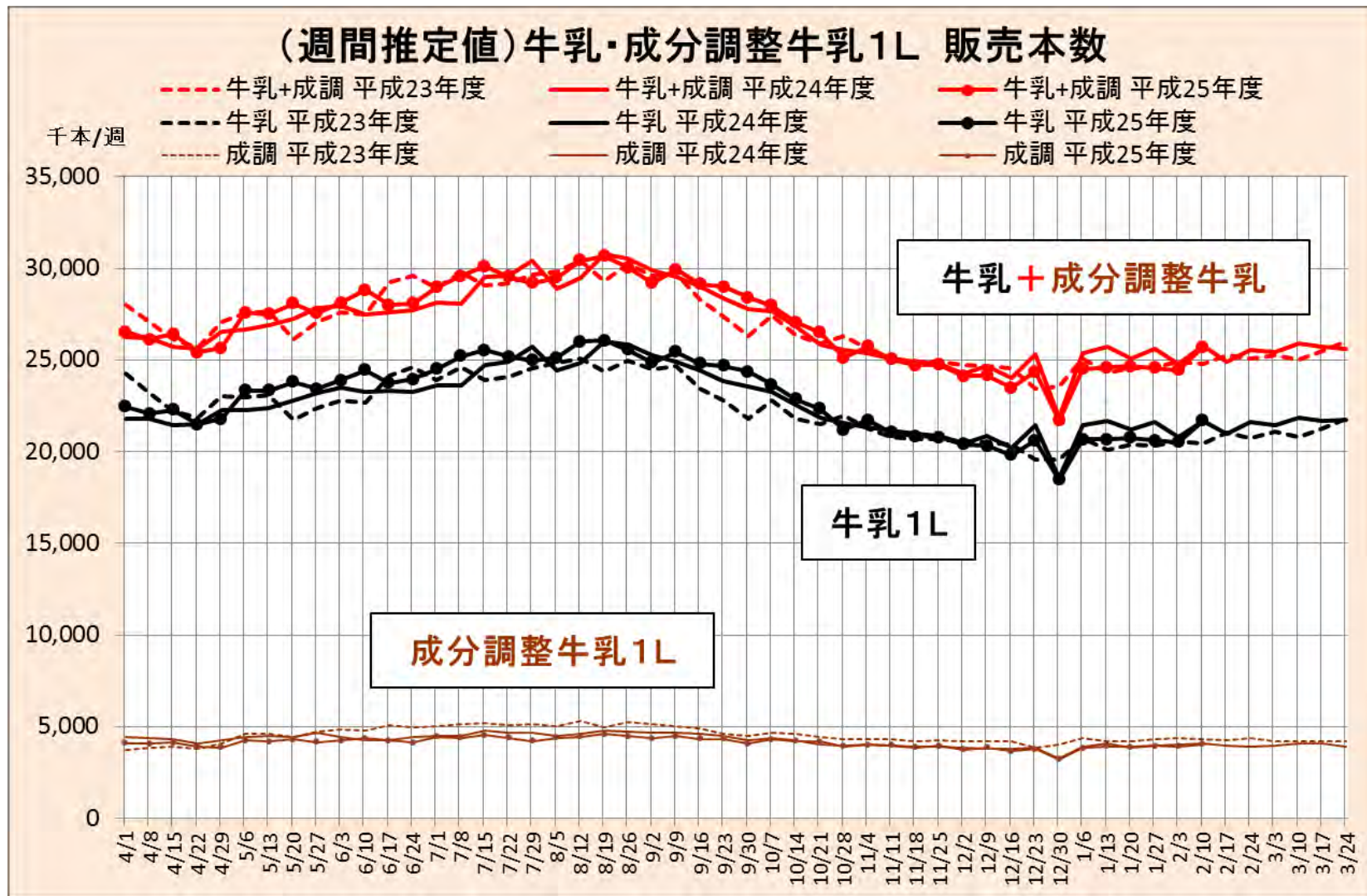


10月の飲用乳価値上げ・出荷価格改定に伴い、多くの店舗で店頭小売価格も改定。「牛乳」は、改定前と比較して6円程度、「成分調整牛乳」は、3円程度上昇で推移。

Ⅱ－２．牛乳等生産量の動向

(3)「牛乳・成分調整牛乳の販売本数」の推移

(インテージSRI週次データ) ※転載を禁ず



Ⅱ－3. 用途別処理量の動向

(1) 予測部分以外の項目の算出手法

■算出項目 & ■算出手法

①自家消費量：直近までの動向を踏まえ設定。

②牛乳等向処理量：

：牛乳等の生産予測数量から、生乳使用率(設定)、比重(1.032)及び歩留り(0.995)を勘案して算出(kl⇒kg)。

$$\begin{aligned} \text{牛乳等向処理量} = & ((\text{牛乳} + \text{成分調整牛乳}) \times (1.032/0.995)) \\ & + ((\text{加工乳} + \text{乳飲料} + \text{はっ酵乳}) \times \text{生乳使用率} \times (1.032/0.995)) \end{aligned}$$

③乳製品向処理量

：「生乳供給量－牛乳等向処理量」で算出。

「生乳供給量」と「牛乳等向処理量」の差し引きであることから、**「乳製品向処理量」は、先の2つの変動に大きく影響を受ける。**

Ⅱ－3. 用途別処理量の動向

(2) 見通しの概要

表3－2: 平成26年度の生乳供給量及び用途別処理量(見通し)

(千トン)

26年度	生乳生産量		自家消費量		生乳供給量		牛乳等向		乳製品向	
		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比
4月	633	97.4%	5	97.4%	629	97.4%	320	98.7%	309	96.2%
5月	654	97.5%	5	97.4%	649	97.5%	342	98.6%	308	96.2%
6月	625	97.9%	5	97.8%	620	97.9%	344	99.3%	276	96.2%
7月	623	98.6%	5	98.4%	618	98.6%	344	98.3%	275	98.8%
8月	605	99.6%	5	99.5%	601	99.7%	322	98.0%	279	101.7%
9月	585	98.6%	5	98.4%	580	98.6%	351	99.3%	229	97.4%
10月	601	98.8%	5	98.6%	596	98.8%	345	98.4%	251	99.2%
11月	581	98.8%	5	98.6%	576	98.8%	322	98.9%	254	98.7%
12月	609	98.8%	5	98.6%	605	98.8%	304	99.3%	300	98.4%
1月	622	98.8%	5	98.6%	618	98.8%	311	98.7%	307	99.0%
2月	574	99.0%	5	98.8%	569	99.0%	296	99.4%	273	98.6%
3月	641	99.0%	5	98.9%	637	99.0%	313	100.0%	324	98.1%
Q1	1,912	97.6%	14	97.5%	1,898	97.6%	1,005	98.9%	893	96.2%
Q2	1,813	98.9%	14	98.8%	1,799	98.9%	1,017	98.5%	782	99.4%
Q3	1,791	98.8%	14	98.6%	1,777	98.8%	971	98.8%	806	98.7%
Q4	1,837	98.9%	14	98.8%	1,824	98.9%	920	99.4%	904	98.5%
上期	3,725	98.2%	28	98.1%	3,697	98.2%	2,022	98.7%	1,675	97.7%
下期	3,628	98.9%	28	98.7%	3,600	98.9%	1,891	99.1%	1,709	98.6%
年度計	7,354	98.5%	56	98.4%	7,297	98.5%	3,913	98.9%	3,384	98.1%

減少

減少

減少

(1) 予測部分以外の項目の算出手法

■算出項目 & ■算出手法

①脱脂粉乳・バター生産量

：「特定乳製品向処理量 × 製造係数」で算出。

「特定乳製品向処理量」＝「乳製品向処理量」－「その他乳製品向処理量」
※「その他乳製品(チーズ・生クリーム等)向処理量」は、前年比100%で設定。

②脱脂粉乳・バターの輸入量

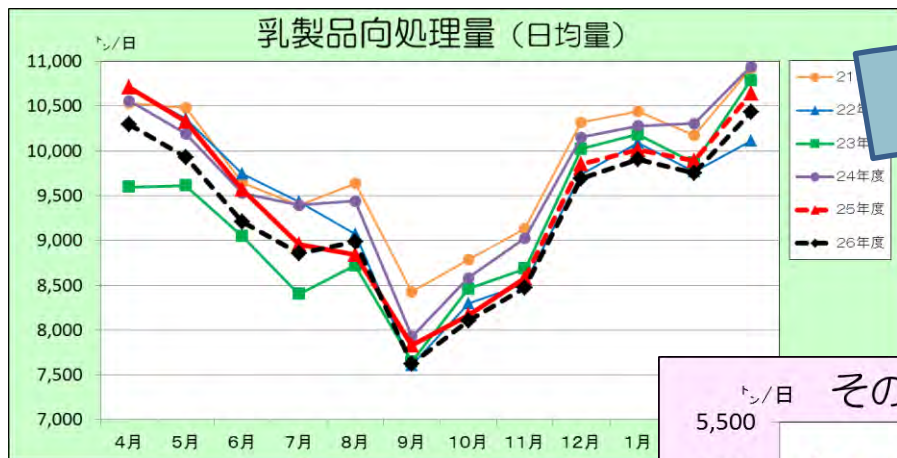
：カレントアクセス枠量からホエイ類輸入見込量4.5千t分を除いた残量を脱脂粉乳・バターで半量ずつ輸入した場合で仮定。
※なお、前倒し輸入分についても、26年度の輸入量としてカウント。

③脱脂粉乳・バターの在庫月数

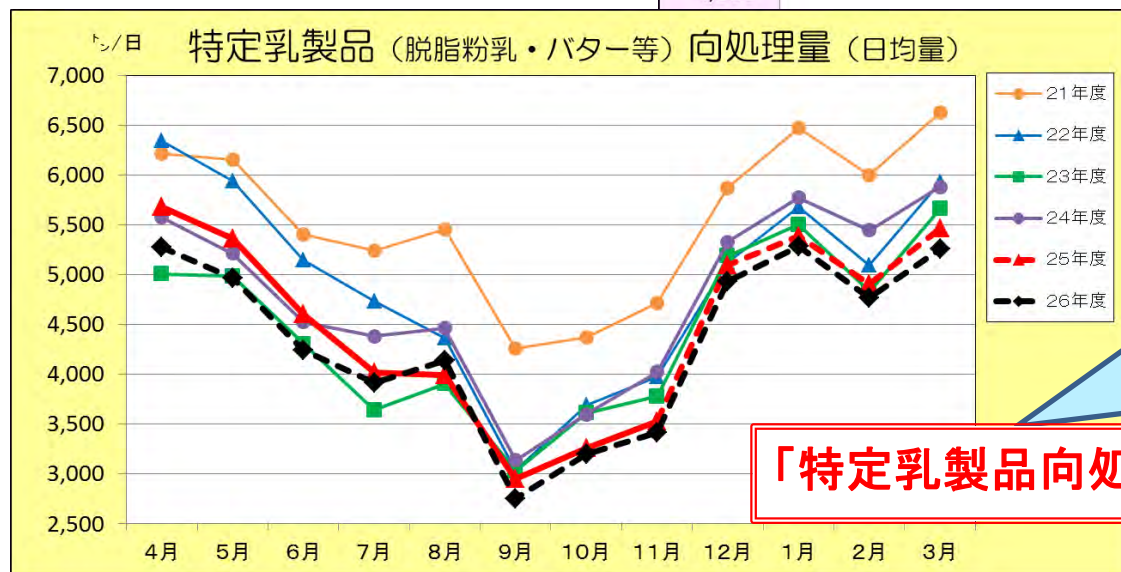
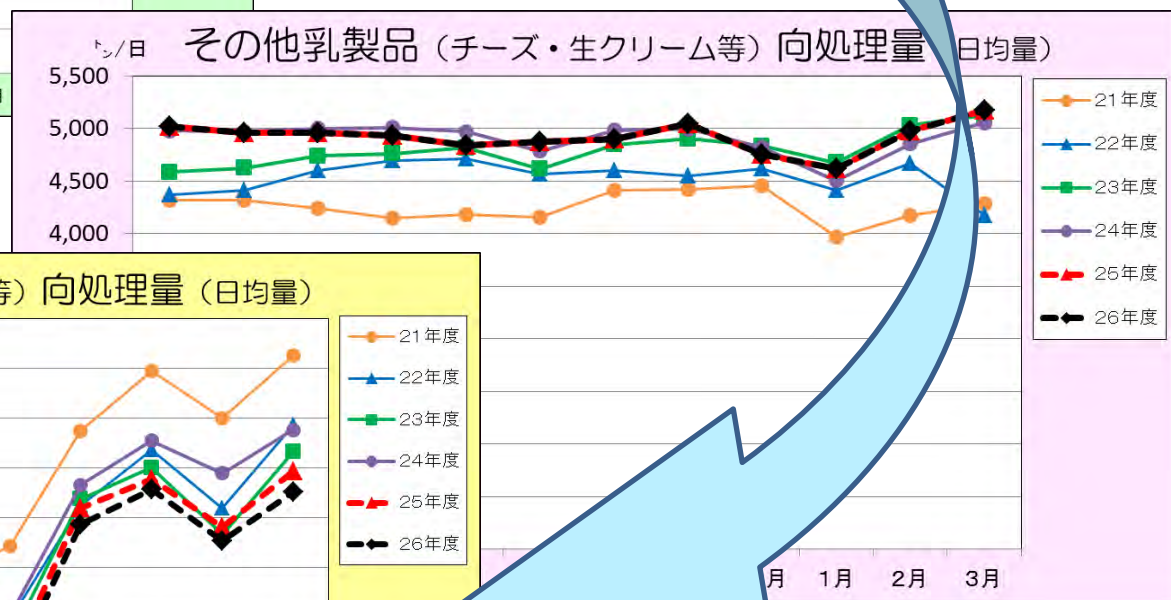
：前年度の年間消費量の1ヶ月平均で割って算出。

Ⅱ-4. 乳製品需給の動向

(2) 「その他乳製品向処理量」及び「特定乳製品向処理量」



26年度の加工原料乳補給金の交付対象に「チーズ向け生乳」が加えられたことや、チーズや生クリーム・脱脂濃縮乳等の需要が堅調なことなどから、26年度の「**その他乳製品向処理量**」は、**前年並み**で推移すると見込んだ(前年比100%で設定)。



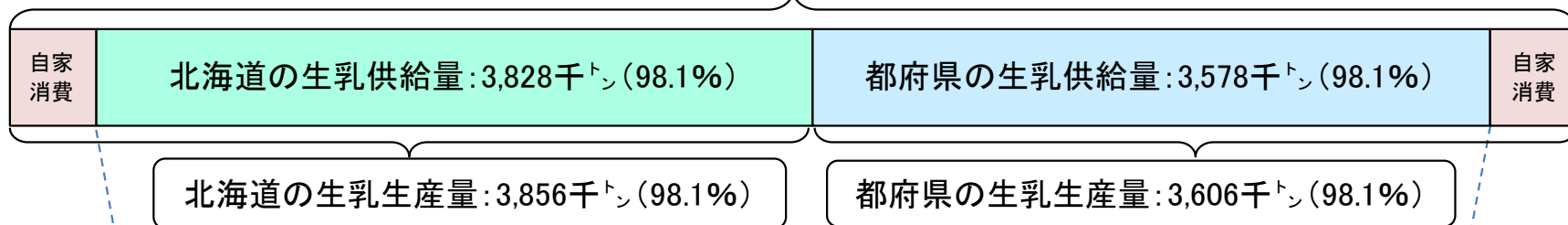
「**特定乳製品向処理量**」は、**減少傾向**で推移。

Ⅱ-4. 乳製品需給の動向

(3) 生乳供給量及び用途別処理量の概略図

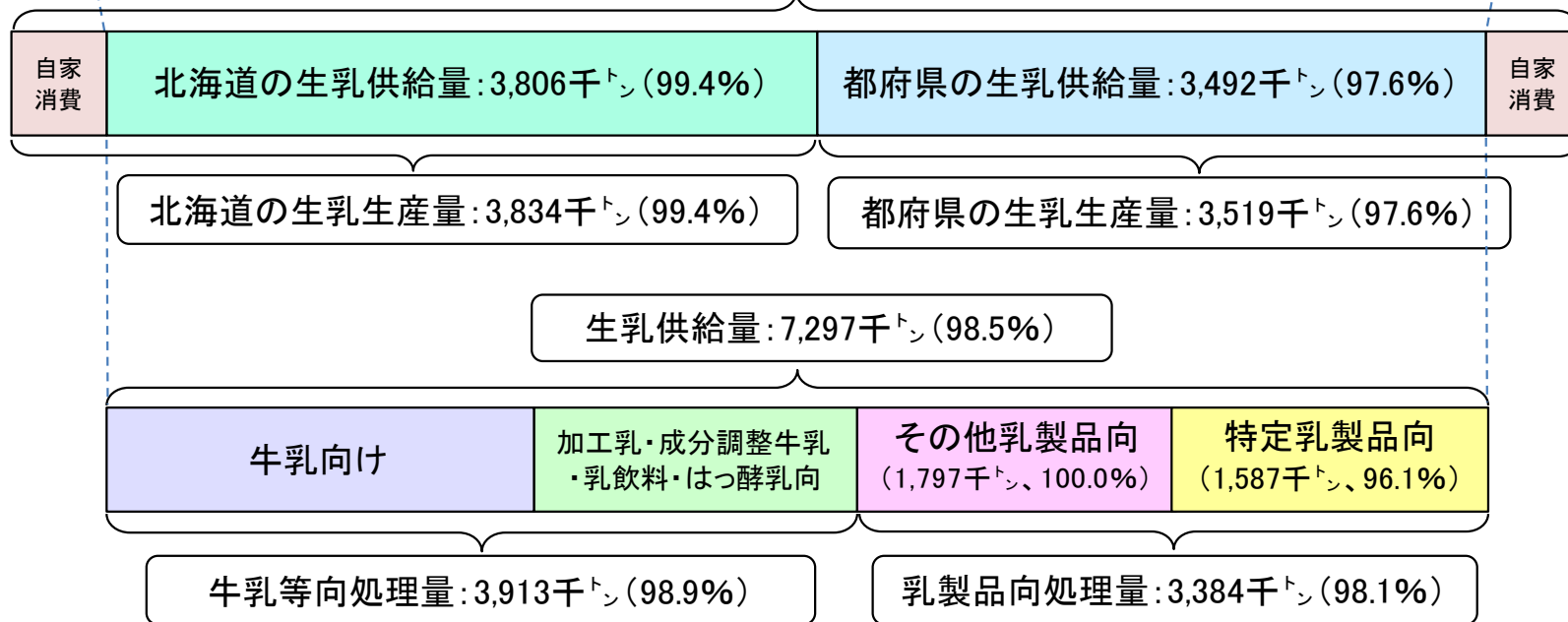
1. 平成25年度の生乳生産量

生乳生産量: 7,462千トﾝ (98.1%)



2. 平成26年度の生乳生産量 及び用途別処理量

生乳生産量: 7,354千トﾝ (98.5%)



Ⅱ－４．乳製品需給の動向

(4) 特定乳製品(脱脂粉乳・バター)の見通しの概要

表4-1：平成26年度 脱脂粉乳の需給（見通し）

(千トン)

脱脂粉乳	生産量		輸入量 (売渡量)	供給量		消費量		過不足 A+B-C	年度末在庫量 (民間在庫量)		
	A	前年比		A+B	前年比	C	前年比		月数	前年比	
25年度	133.3	94.2%	8.7	142.0	100.4%	142.6	102.1%	▲0.6	48.9	4.2	98.8%
26年度	128.1	96.1%	8.2	136.3	96.0%	144.7	101.5%	▲8.5	40.4	3.4	82.7%

減少

カレント分

増加(回復)

減少

表4-2：平成26年度 バターの需給（見通し）

(千トン)

バター	生産量		輸入量 (売渡量)	供給量		消費量		過不足 A+B-C	年度末在庫量 (民間在庫量)		
	A	前年比		A+B	前年比	C	前年比		月数	前年比	
25年度	67.4	96.2%	3.5	70.9	89.2%	71.2	94.7%	▲0.2	23.2	3.7	98.9%
26年度	64.8	96.1%	4.3	69.1	97.5%	74.5	104.6%	▲5.3	17.9	3.0	77.1%

減少

カレント分

増加(回復)

減少

脱脂粉乳・バターともに、供給量が消費量を下回り、カレント輸入分を勘案しても、在庫量は減少の見込み。

⇒ 需要があっても供給されなければ、チャンスロスにより、消費は減退するとともに、海外からの輸入(調製品等)にも消費を奪われてしまう。

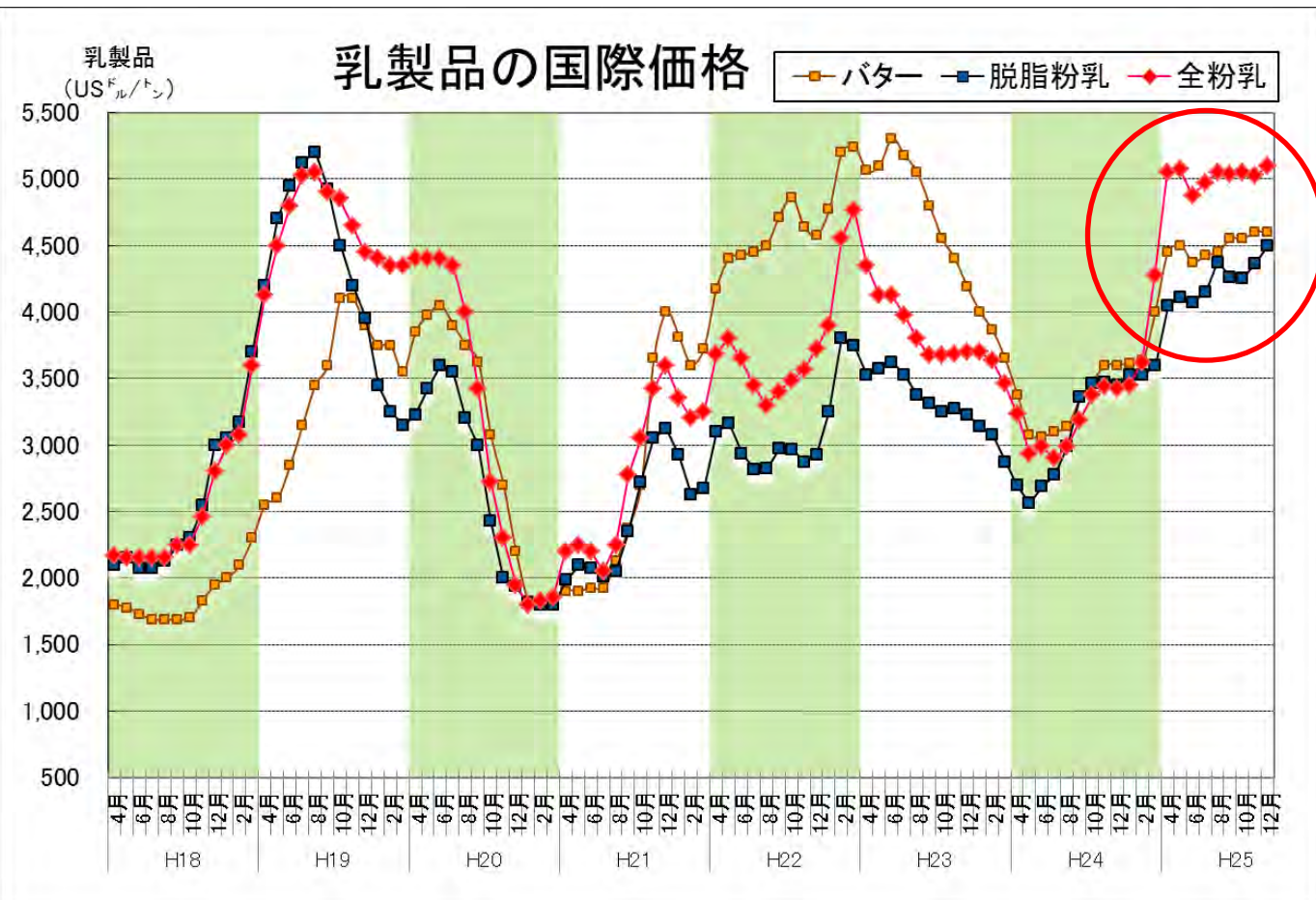


しかし、海外の状況を見てみると…

Ⅱ-4. 乳製品需給の動向

(5)「乳製品の国産価格」の推移

(農畜産業振興機構HP掲載データを基に作成)



乳製品は、国際的にも、需給ひっ迫・価格高止まり傾向

⇒ 海外からの調達も、さほど容易ではない状況が継続

注1: 価格は高値と安値の単純平均(西欧積み出し港のFOB価格)

注2: 平成25年12月分は暫定値

(1) 予測部分以外の項目の算出手法

■算出項目 & ■算出手法

①脱脂粉乳消費量見合いの生乳需要量

：「(消費量－輸入量)÷製造係数」で算出。

②バター消費量見合いの生乳需要量

：「(消費量－輸入量)÷製造係数」で算出。

上記①②の生乳(換算)量が、それぞれ、脱脂粉乳ベース及びバターベースの「特定乳製品向(国産)生乳需要量」(国産生乳でそれぞれの需要量(消費量)を満たすために必要な特定乳製品向処理量)。

それらに「その他乳製品向処理量」を加えたものが、それぞれ、脱脂粉乳ベース及びバターベースの「乳製品向(国産)生乳需要量」。

Ⅱ－５．国産生乳需給の見通し

(2) 見通しの概要

表５－１：平成２６年度 脱脂粉乳ベースの国産生乳需要量（見通し）

(千トン)

脱脂粉乳 ベース	生乳供給量		国産生乳需要量		脱脂粉乳見合い				生乳供給量と 国産生乳需要量 の差 C=A-B
					牛乳等向		乳製品向		
	A	前年比	B	前年比		前年比		前年比	
25年度	7,405	98.1%	7,413	98.5%	3,957	98.7%	3,456	98.3%	▲7
26年度	7,297	98.5%	7,402	99.9%	3,913	98.9%	3,489	101.0%	▲105

⇒ 脱脂粉乳在庫量減少：▲8.5千トン

表５－２：平成２６年度 バターベースの国産生乳需要量（見通し）

(千トン)

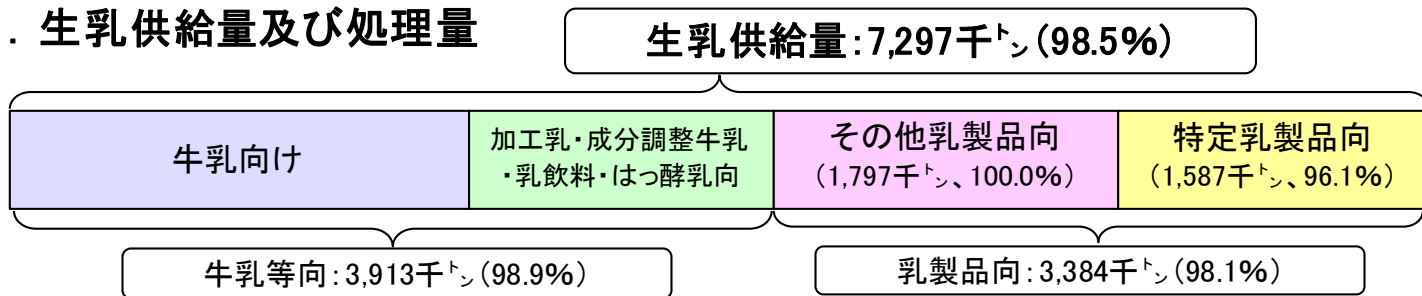
バター ベース	生乳供給量		国産生乳需要量		バター見合い				生乳供給量と 国産生乳需要量 の差 C=A-B
					牛乳等向		乳製品向		
	A	前年比	B	前年比		前年比		前年比	
25年度	7,405	98.1%	7,411	99.6%	3,957	98.7%	3,454	100.7%	▲6
26年度	7,297	98.5%	7,428	100.2%	3,913	98.9%	3,514	101.7%	▲130

⇒ バター在庫量減少：▲5.3千トン

脱脂粉乳ベース・バターベースのいずれにおいても、生乳供給量が国産生乳需要量を下回る。

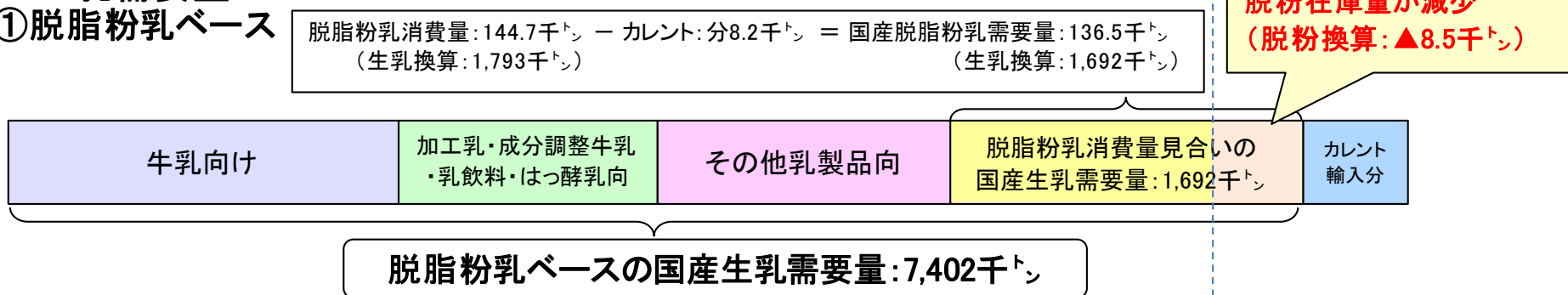
Ⅱ-5. 国産生乳需給の見通し

1. 生乳供給量及び処理量

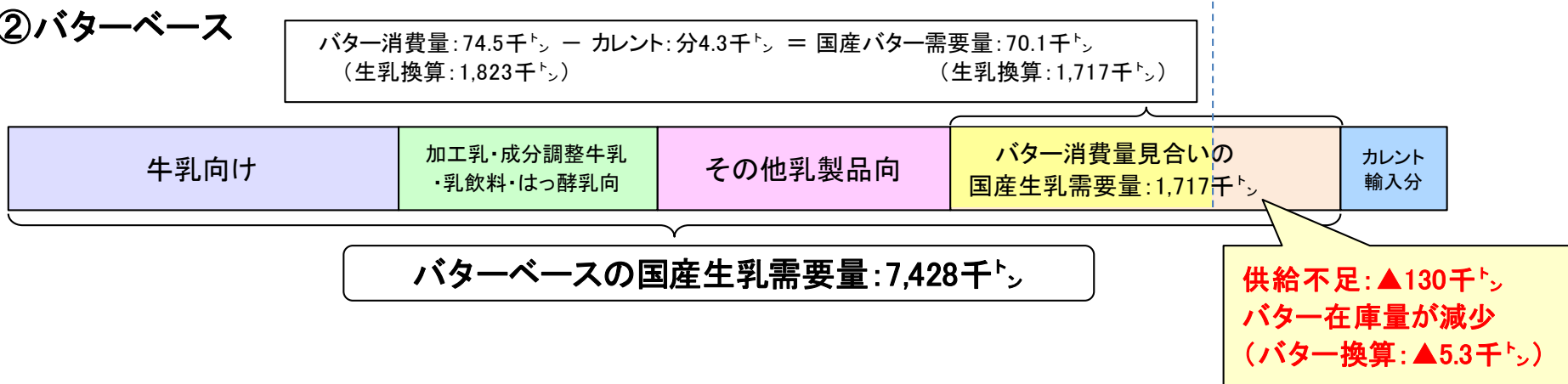


2. 生乳需要量

① 脱脂粉乳ベース



② バターベース



Ⅱ－５．国産生乳需給の見通し

(3) 見通しの概要 (生乳生産量が1%(75千ト)増加の場合)

表5－1：平成26年度 脱脂粉乳ベースの国産生乳需要量 (見通し)

(千トン)

脱脂粉乳 ベース	生乳供給量		国産生乳需要量				生乳供給量と 国産生乳需要量 の差		
			牛乳等向		乳製品向		C=A-B		
	A	前年比	B	前年比	前年比	前年比			
25年度	7,405	98.1%	7,413	98.5%	3,957	98.7%	3,456	98.3%	▲7
26年度	7,372	99.6%	7,402	99.9%	3,913	98.9%	3,489	101.0%	▲30

7,297+75

⇒ それでも、脱脂粉乳在庫量減少：▲2.4千ト

表5－2：平成26年度 バターベースの国産生乳需要量 (見通し)

(千トン)

バター ベース	生乳供給量		国産生乳需要量				生乳供給量と 国産生乳需要量 の差		
			牛乳等向		乳製品向		C=A-B		
	A	前年比	B	前年比	前年比	前年比			
25年度	7,405	98.1%	7,411	99.6%	3,957	98.7%	3,454	100.7%	▲6
26年度	7,372	99.6%	7,428	100.2%	3,913	98.9%	3,514	101.7%	▲55

7,297+75

⇒ それでも、バター在庫量減少：▲2.3千ト

生乳生産量が1%増加した場合でも、生乳供給量は国産生乳需要量を下回る。

課題1：生乳生産基盤の維持強化

● 需給動向及び取りまく環境

◆ 生乳生産量の減少

- ・ 生産コストの上昇（原油・穀物輸入価格の上昇、円安傾向等）
- ・ 乳牛資源の不足（酪農生産者戸数減少、経営悪化、F1種付率増加等）
- ・ 天候不順（牛体のへたダメージ、種付の遅れ、自給飼料減収・質低下等）
- ・ 基盤強化・増産のための各種対策・取り組み（25年度乳価値上げ、26年度の補給金単価の引き上げ、各種対策の強化拡充等）

● 対応

安定的な生乳供給のため、将来を見据えた総合的なビジョンを酪農乳業が一体となって描き、促進していくことが肝要

（個々の課題：酪農生産者戸数の維持、飼養頭数の増加、後継牛の確保、新規就農の促進、経営規模拡大、自給飼料増産、適切な飼養管理、酪肉近の策定や新たな酪農乳業対策大綱の検証、酪農乳業の競争力強化、適正かつ合理的な価格形成、etc.）

課題2: 牛乳等需要の拡大

● 需給動向及び取りまく環境

◆ 牛乳等の需要は全体としてはやや減少基調

- ・ 人口減少・少子高齢化・単身世帯増加等による消費構造の変化
- ・ 景気低迷等に伴う消費者購買力の低下・低価格指向
- ・ 10月以降の牛乳類の出荷価格改定に伴う、牛乳類の小売価格の改定(牛乳を中心とした、主に価格の値上げ)
- ・ 26年4月の消費税増税

⇒ これらの影響がどのように顕在化してくるか不透明

● 対応

- ・ 需給動向を引き続き注視
- ・ 消費者への理解醸成の強化
- ・ 価値訴求を中心とした、新たな市場開拓も含めた、業界全体での消費拡大対策の推進

課題3: 乳製品供給体制の安定強化

● 需給動向及び取りまく環境

◆ 乳製品生産量が乳製品需要に応えきれない状況が継続

・ 乳製品国際市場の需給ひっ迫・価格の高止まり

⇒ 海外からの輸入も、さほど容易ではない状況が継続

⇒ チャンスロスにより需要基盤そのものが消失する可能性あり

● 対応

需給のひっ迫に起因する市場の縮小は何より避けるべきで、乳製品の安定供給を確実に実施していくことが必要。

そのためには、生乳生産増加のための最大限の努力に加え、適切な輸入対策の実施、的確な需給情報発信、取り組みへの理解醸成や国産乳製品の価値訴求の強化等が重要。

平成26年度の 生乳及び牛乳乳製品の需給見通しと 今後の課題について

平成26年1月23日
一般社団法人 Jミルク

1. 地域別生乳生産量の動向

【生乳生産量予測の前提】

・北海道及び都府県の予測値は、過去の生乳生産量実績データの動向パターンに基づく、気温や乳牛頭数等を組み込んだ予測モデル(ARIMAモデル)による推計値を基本に算出。
 なお、平成26年度の気温は、平年並で設定。

表1-1：平成25年度の地域別生乳生産量（見通し）（千トン）

25年度	全 国		北海道		都府県	
		前年比		前年比		前年比
4月	650	100.1%	329	101.0%	322	99.3%
5月	671	100.0%	343	101.0%	328	98.9%
6月	638	99.4%	333	100.5%	305	98.3%
7月	632	98.1%	333	98.5%	299	97.7%
8月	608	96.5%	321	96.3%	286	96.7%
9月	593	98.2%	311	97.7%	282	98.8%
10月	608	97.0%	316	96.2%	292	97.7%
11月	588	97.2%	303	96.7%	285	97.8%
12月	617	97.6%	319	97.3%	298	98.0%
1月	630	97.8%	325	97.7%	305	97.8%
2月	579	97.5%	296	96.9%	283	98.0%
3月	648	97.5%	328	97.4%	320	97.7%
Q1	1,960	99.8%	1,004	100.8%	955	98.8%
Q2	1,833	97.6%	965	97.5%	868	97.7%
Q3	1,813	97.3%	938	96.7%	875	97.9%
Q4	1,857	97.6%	949	97.3%	908	97.8%
上期	3,792	98.7%	1,969	99.2%	1,823	98.3%
下期	3,670	97.4%	1,887	97.0%	1,783	97.8%
年度計	7,462	98.1%	3,856	98.1%	3,606	98.1%

※表は、白枠部分が実績、着色部分が見通し（平成25年12月以降）。
 以下、全て同様。

【生乳生産量の見通し】

25年度は、酪農生産者戸数及び乳牛飼養頭数が減少していること（飼養頭数の推移は最終頁の参考グラフを参照）に加え、生産の主力となる2～4歳程度の若牛の飼養頭数も24年度を下回って推移（全国では25年5月から前年割れ）していること等から、生乳生産量は、北海道・都府県ともに、年度計では24年度を下回る見込み（北海道3,856千トン・98.1%、都府県3,606千トン・98.1%）となっている。

26年度は、乳牛飼養頭数が引き続き減少傾向で推移すると見込まれること等から、このままの状況で推移すれば、生乳生産量は、北海道では25年度と同程度かやや下回る程度（年度計3,834千トン・99.4%）、都府県では25年度を下回って推移（年度計3,519千トン・97.6%）すると見込まれ、その結果、全国でも25年度を下回って推移（年度計7,354千トン・98.5%）すると見込まれる。

なお、26年度は政府や関係団体における増産に向けた各種対策が積極的に実行されるとあり、それらの施策効果を前向きに評価すれば、本見通しより増加（全国計で0.5～1%程度）すると考えられる。

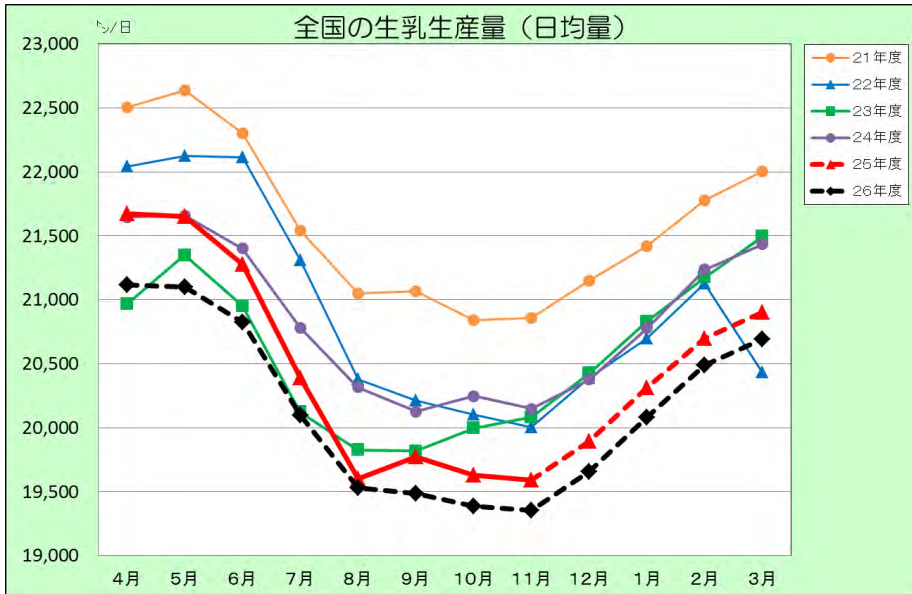
表1-2：平成26年度の地域別生乳生産量（見通し）（千トン）

26年度	全 国		北海道		都府県	
		前年比		前年比		前年比
4月	633	97.4%	320	97.3%	314	97.6%
5月	654	97.5%	334	97.4%	320	97.5%
6月	625	97.9%	327	98.2%	298	97.6%
7月	623	98.6%	331	99.6%	292	97.5%
8月	605	99.6%	324	100.9%	281	98.3%
9月	585	98.6%	311	100.1%	273	96.8%
10月	601	98.8%	317	100.1%	284	97.4%
11月	581	98.8%	304	100.1%	277	97.4%
12月	609	98.8%	318	99.9%	291	97.6%
1月	622	98.8%	324	99.9%	298	97.7%
2月	574	99.0%	297	100.1%	277	97.8%
3月	641	99.0%	328	100.1%	313	97.9%
Q1	1,912	97.6%	980	97.6%	932	97.6%
Q2	1,813	98.9%	966	100.2%	847	97.5%
Q3	1,791	98.8%	938	100.0%	853	97.5%
Q4	1,837	98.9%	949	100.0%	888	97.8%
上期	3,725	98.2%	1,947	98.9%	1,778	97.5%
下期	3,628	98.9%	1,888	100.0%	1,741	97.7%
年度計	7,354	98.5%	3,834	99.4%	3,519	97.6%

※なお、各種増産対策により、本見通しより増加（0.5～1%程度）すると考えられる。

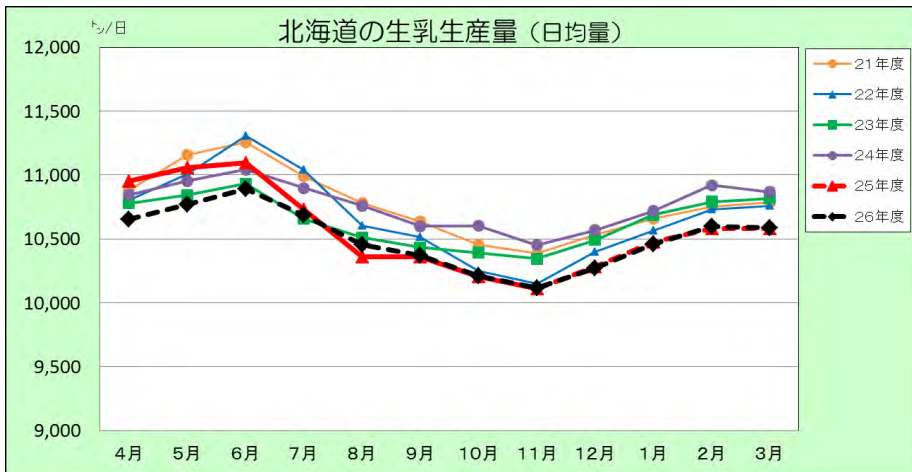
1. 地域別生乳生産量の動向

グラフ1-1：全国の生乳生産量（日均量）

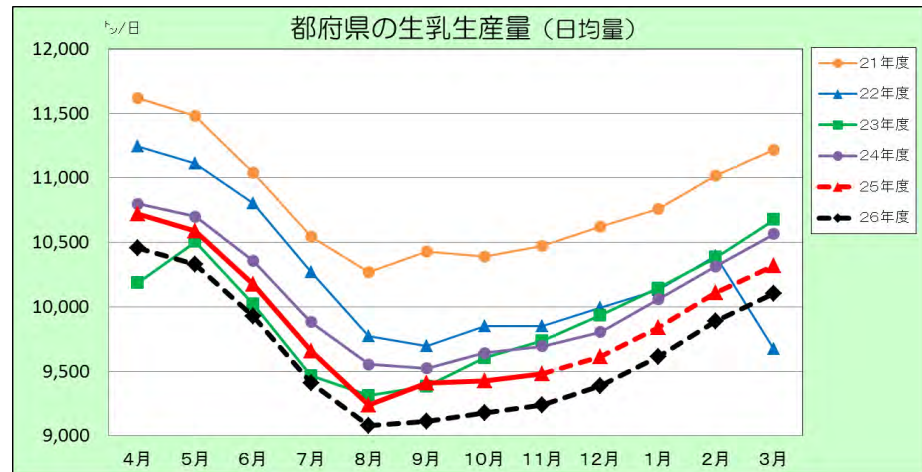


※グラフは、実線部分が実績、点線部分が見通し（平成25年12月以降）。
以下、全て同様。

グラフ1-2：北海道の生乳生産量（日均量）



グラフ1-3：都府県の生乳生産量（日均量）



2. 牛乳等生産量の動向

【牛乳等生産量予測の前提】

・各々の予測値は、過去の生産量実績データの動向パターンに基づく、気温や平日日数等を組み込んだ予測モデル(ARIMAモデル)による推計値を基本に算出。なお、平成26年度の気温は、平年並で設定。

表2-1：平成25年度の牛乳等生産量（見通し）

25年度	牛乳類		牛乳		加工乳		成分調整牛乳		乳飲料		はっ酵乳	
	前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比
4月	393	99.3%	246	99.4%	11	82.9%	28	91.9%	109	103.4%	90	106.3%
5月	424	100.1%	265	100.2%	11	78.8%	29	92.0%	119	104.7%	91	102.3%
6月	422	99.8%	262	99.5%	10	87.4%	29	94.3%	120	103.0%	87	101.5%
7月	435	100.3%	263	100.2%	10	89.5%	31	93.8%	130	103.3%	88	101.2%
8月	417	99.4%	244	99.9%	10	90.0%	32	94.4%	131	100.5%	84	101.8%
9月	438	98.9%	273	99.3%	10	90.8%	30	93.5%	125	100.2%	84	100.2%
10月	439	98.8%	272	99.0%	11	90.1%	31	100.7%	125	98.6%	84	101.1%
11月	396	99.3%	251	98.2%	11	96.7%	28	101.1%	105	101.9%	78	102.0%
12月	380	99.7%	240	98.1%	11	91.0%	28	101.4%	102	104.4%	75	102.9%
1月	378	99.2%	238	97.8%	10	94.0%	29	103.5%	101	101.8%	79	101.6%
2月	359	99.7%	229	98.8%	10	96.6%	26	104.0%	94	100.9%	77	101.7%
3月	382	98.5%	235	98.0%	11	98.5%	29	102.3%	107	98.8%	87	97.6%
Q1	1,239	99.7%	773	99.7%	31	82.8%	86	92.8%	348	103.7%	268	103.3%
Q2	1,291	99.6%	780	99.8%	31	90.1%	93	93.9%	386	101.3%	256	101.1%
Q3	1,215	99.2%	763	98.4%	33	92.5%	87	101.1%	332	101.4%	236	102.0%
Q4	1,120	99.1%	703	98.2%	31	96.4%	84	103.3%	302	100.4%	244	100.2%
上期	2,530	99.6%	1,553	99.8%	63	86.3%	180	93.3%	735	102.5%	524	102.2%
下期	2,334	99.2%	1,466	98.3%	64	94.3%	170	102.1%	634	100.9%	480	101.0%
年度計	4,864	99.4%	3,019	99.1%	127	90.2%	350	97.4%	1,369	101.7%	1,004	101.6%

【牛乳等生産量の見通し】

25年度は、「牛乳」が減少基調ではあるものの減少幅は従来より小さくなって推移（年度計99.1%）していることや、「乳飲料」も好調に推移（年度計101.7%）していること等から、「牛乳類」でも24年度をやや下回る程度（年度計99.4%）と見込まれる。なお、「はっ酵乳」については、24年度と比較すると伸び率はやや鈍化してきているものの、引き続き好調に推移（年度計101.6%）している。

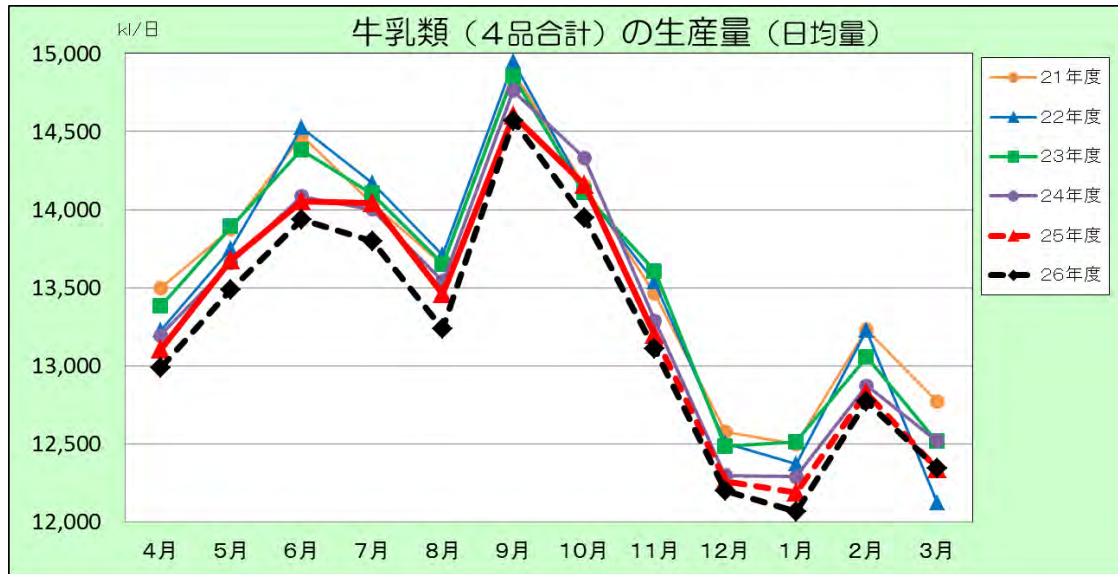
26年度は、25年10月以降の小売価格改定及び26年4月の消費税増税の影響等を注視する必要があるが、現時点までの動向を基にした予測では、「牛乳」はやや減少傾向（年度計98.4%）、「乳飲料」は堅調を維持（年度計100.2%）、「牛乳類」でも25年度をやや下回る程度（年度計99.1%）と見込まれる。また、「はっ酵乳」は引き続き好調に推移（年度計102.5%）すると見込まれる。

表2-2：平成26年度の牛乳等生産量（見通し）

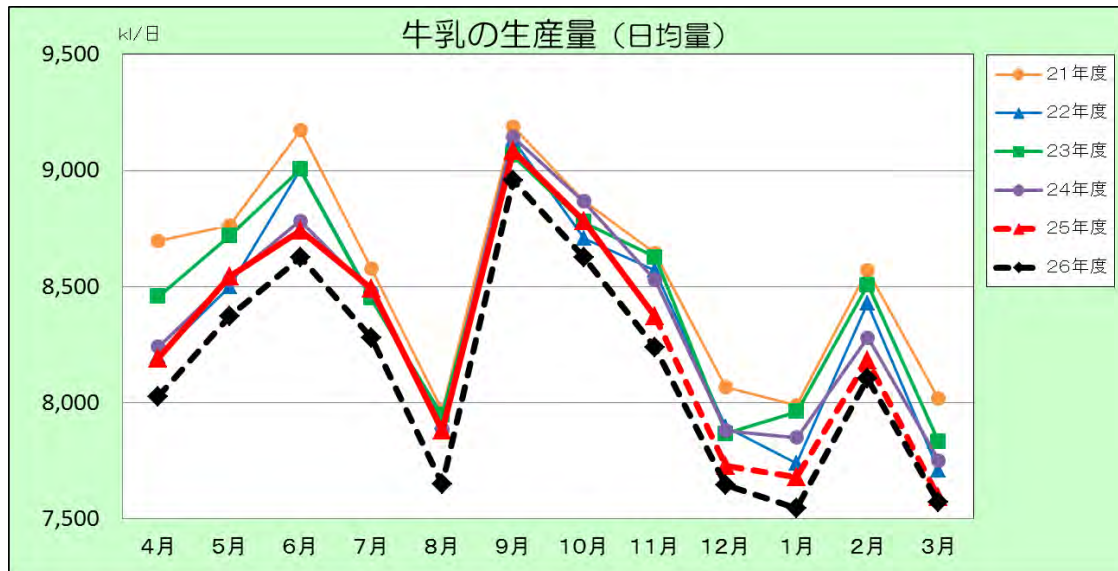
26年度	牛乳類		牛乳		加工乳		成分調整牛乳		乳飲料		はっ酵乳	
	前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比
4月	390	99.1%	241	98.0%	11	99.0%	29	103.8%	109	100.3%	88	97.6%
5月	418	98.6%	260	98.0%	11	104.9%	30	103.0%	117	98.4%	91	100.2%
6月	418	99.2%	259	98.6%	11	109.2%	30	102.6%	119	98.7%	90	102.9%
7月	428	98.3%	257	97.5%	11	109.5%	32	102.8%	128	97.8%	90	103.1%
8月	410	98.4%	237	97.1%	12	111.5%	32	101.6%	130	98.9%	86	101.5%
9月	437	99.8%	269	98.6%	11	108.4%	31	102.0%	126	101.0%	86	102.9%
10月	432	98.5%	267	98.2%	11	100.9%	30	97.3%	124	99.3%	87	104.0%
11月	393	99.3%	247	98.4%	10	92.4%	28	99.1%	108	102.3%	80	103.0%
12月	378	99.5%	237	98.9%	10	91.8%	27	99.0%	104	101.9%	78	104.2%
1月	374	99.0%	234	98.2%	9	90.9%	28	99.0%	103	101.7%	81	102.9%
2月	358	99.6%	227	99.0%	9	91.0%	26	99.0%	96	101.8%	80	103.6%
3月	383	100.0%	235	99.7%	10	91.2%	29	99.0%	109	101.9%	91	104.4%
Q1	1,226	99.0%	759	98.2%	33	104.2%	89	103.1%	345	99.1%	269	100.2%
Q2	1,275	98.8%	763	97.7%	34	109.8%	95	102.1%	384	99.2%	262	102.5%
Q3	1,204	99.1%	752	98.5%	31	95.0%	85	98.4%	335	101.0%	245	103.7%
Q4	1,114	99.5%	696	99.0%	28	91.0%	83	99.0%	308	101.8%	252	103.7%
上期	2,501	98.9%	1,522	98.0%	67	107.0%	184	102.6%	729	99.2%	531	101.3%
下期	2,318	99.3%	1,447	98.7%	60	93.1%	168	98.7%	643	101.4%	498	103.7%
年度計	4,819	99.1%	2,969	98.4%	127	99.9%	352	100.7%	1,371	100.2%	1,029	102.5%

2. 牛乳等生産量の動向

グラフ2-1：牛乳類（牛乳・加工乳・成分統制牛乳・乳飲料）の生産量（日均量）

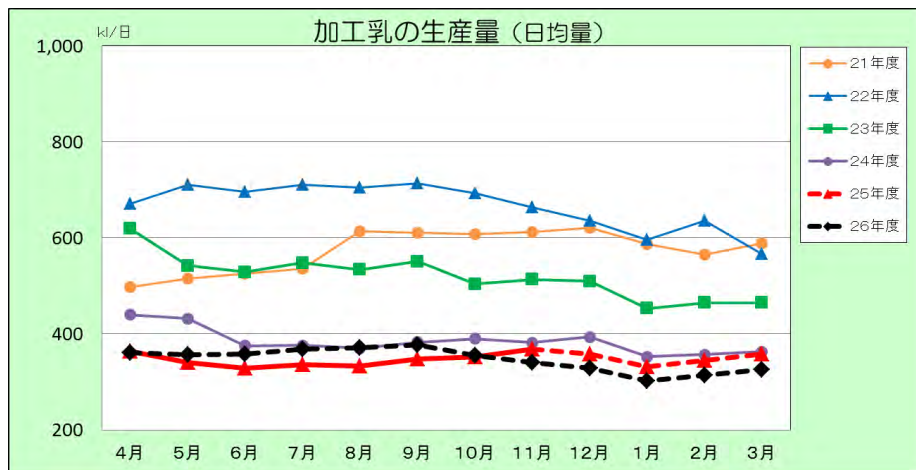


グラフ2-2：牛乳の生産量（日均量）

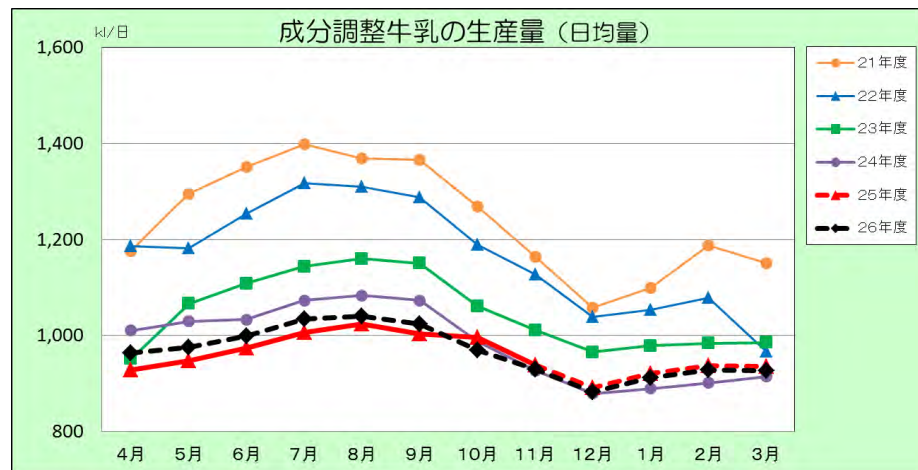


2. 牛乳等生産量の見通し

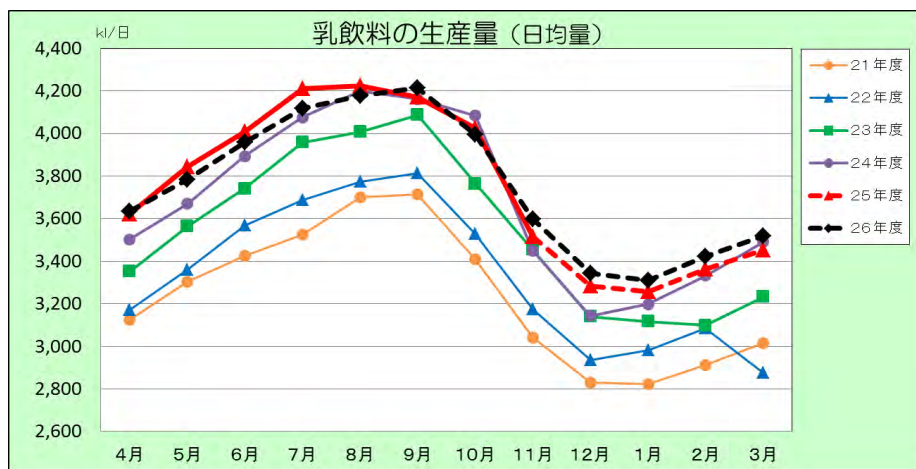
グラフ2-3：加工乳の生産量（日均量）



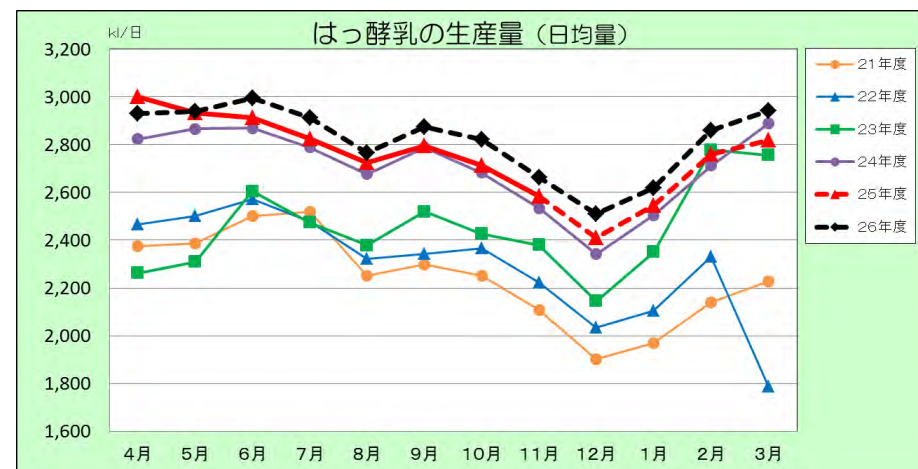
グラフ2-4：成分調整牛乳の生産量（日均量）



グラフ2-5：乳飲料の生産量（日均量）



グラフ2-4：成分調整牛乳の生産量（日均量）



3. 用途別処理量の動向

【用途別処理量予測の前提】

- ・生乳供給量は、生乳生産量から自家消費量を差し引いて算出(自家消費量は、各地域の直近までの動向を踏まえ設定)。
- ・牛乳等向処理量は、牛乳、加工乳、成分調整牛乳、乳飲料、はっ酵乳の予測生産量を基に、生乳使用率、比重(1.032)及び歩留まり(99.5%)を勘案して算出。
- ・乳製品向処理量は、生乳供給量と牛乳等向処理量の差。

表3-1：平成25年度の生乳供給量及び用途別処理量(見通し)

(千トン)

25年度	生乳生産量		自家消費量		生乳供給量		牛乳等向		乳製品向	
		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比
4月	650	100.1%	5	98.0%	645	100.1%	324	98.9%	321	101.4%
5月	671	100.0%	5	97.8%	666	100.0%	346	98.8%	320	101.3%
6月	638	99.4%	5	95.2%	633	99.4%	346	98.6%	287	100.4%
7月	632	98.1%	5	97.7%	627	98.1%	350	100.4%	278	95.4%
8月	608	96.5%	5	94.9%	603	96.5%	329	99.0%	274	93.6%
9月	593	98.2%	5	97.6%	588	98.2%	354	97.9%	235	98.8%
10月	608	97.0%	5	99.2%	604	96.9%	350	98.3%	253	95.2%
11月	588	97.2%	5	97.3%	583	97.2%	326	99.0%	257	95.1%
12月	617	97.6%	5	97.7%	612	97.6%	306	98.2%	305	97.0%
1月	630	97.8%	5	97.7%	625	97.8%	315	98.2%	310	97.4%
2月	579	97.5%	5	97.4%	575	97.5%	298	98.9%	277	95.9%
3月	648	97.5%	5	97.5%	643	97.5%	313	97.7%	330	97.3%
Q1	1,960	99.8%	14	97.0%	1,945	99.9%	1,017	98.8%	928	101.1%
Q2	1,833	97.6%	14	96.7%	1,819	97.6%	1,032	99.1%	787	95.7%
Q3	1,813	97.3%	15	98.1%	1,798	97.3%	982	98.5%	816	95.8%
Q4	1,857	97.6%	14	97.5%	1,843	97.6%	926	98.3%	917	96.9%
上期	3,792	98.7%	28	96.9%	3,764	98.8%	2,049	98.9%	1,715	98.6%
下期	3,670	97.4%	29	97.8%	3,641	97.4%	1,908	98.4%	1,733	96.4%
年度計	7,462	98.1%	57	97.3%	7,405	98.1%	3,957	98.7%	3,448	97.5%

【用途別処理量の見通し】

26年度の用途別処理量は、牛乳等生産量の減少傾向から、「牛乳等向処理量」は25年度を下回って推移(年度計3,913千ト・98.9%)すると見込まれる。また、生乳供給量も減少傾向にあることから、「乳製品向処理量」についても25年度を下回って推移(年度計3,384千ト・98.1%)するものと見込まれる。

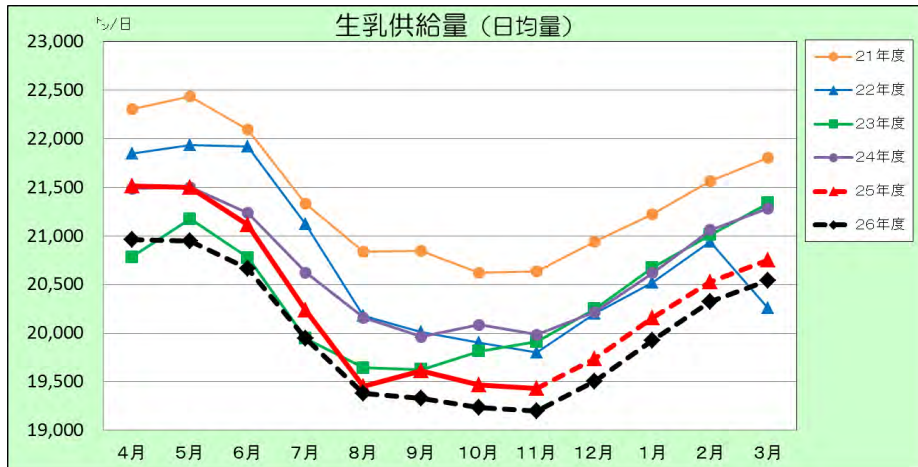
表3-2：平成26年度の生乳供給量及び用途別処理量(見通し)

(千トン)

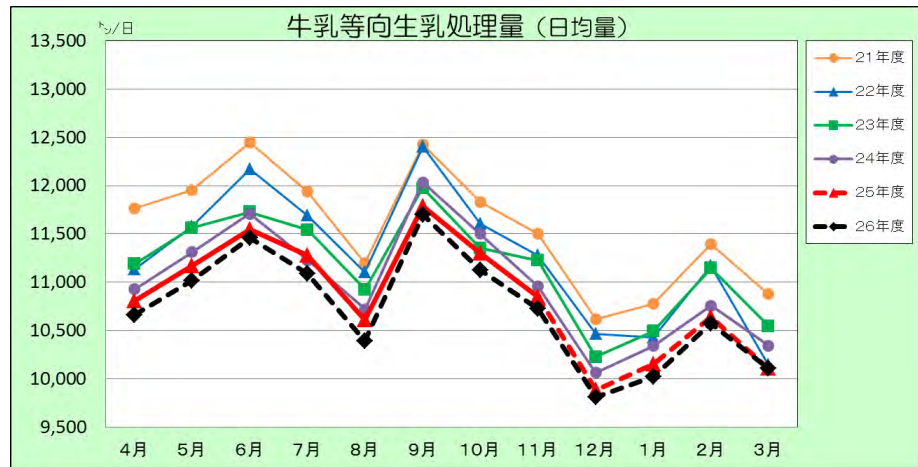
26年度	生乳生産量		自家消費量		生乳供給量		牛乳等向		乳製品向	
		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比
4月	633	97.4%	5	97.4%	629	97.4%	320	98.7%	309	96.2%
5月	654	97.5%	5	97.4%	649	97.5%	342	98.6%	308	96.2%
6月	625	97.9%	5	97.8%	620	97.9%	344	99.3%	276	96.2%
7月	623	98.6%	5	98.4%	618	98.6%	344	98.3%	275	98.8%
8月	605	99.6%	5	99.5%	601	99.7%	322	98.0%	279	101.7%
9月	585	98.6%	5	98.4%	580	98.6%	351	99.3%	229	97.4%
10月	601	98.8%	5	98.6%	596	98.8%	345	98.4%	251	99.2%
11月	581	98.8%	5	98.6%	576	98.8%	322	98.9%	254	98.7%
12月	609	98.8%	5	98.6%	605	98.8%	304	99.3%	300	98.4%
1月	622	98.8%	5	98.6%	618	98.8%	311	98.7%	307	99.0%
2月	574	99.0%	5	98.8%	569	99.0%	296	99.4%	273	98.6%
3月	641	99.0%	5	98.9%	637	99.0%	313	100.0%	324	98.1%
Q1	1,912	97.6%	14	97.5%	1,898	97.6%	1,005	98.9%	893	96.2%
Q2	1,813	98.9%	14	98.8%	1,799	98.9%	1,017	98.5%	782	99.4%
Q3	1,791	98.8%	14	98.6%	1,777	98.8%	971	98.8%	806	98.7%
Q4	1,837	98.9%	14	98.8%	1,824	98.9%	920	99.4%	904	98.5%
上期	3,725	98.2%	28	98.1%	3,697	98.2%	2,022	98.7%	1,675	97.7%
下期	3,628	98.9%	28	98.7%	3,600	98.9%	1,891	99.1%	1,709	98.6%
年度計	7,354	98.5%	56	98.4%	7,297	98.5%	3,913	98.9%	3,384	98.1%

3. 用途別処理量の動向

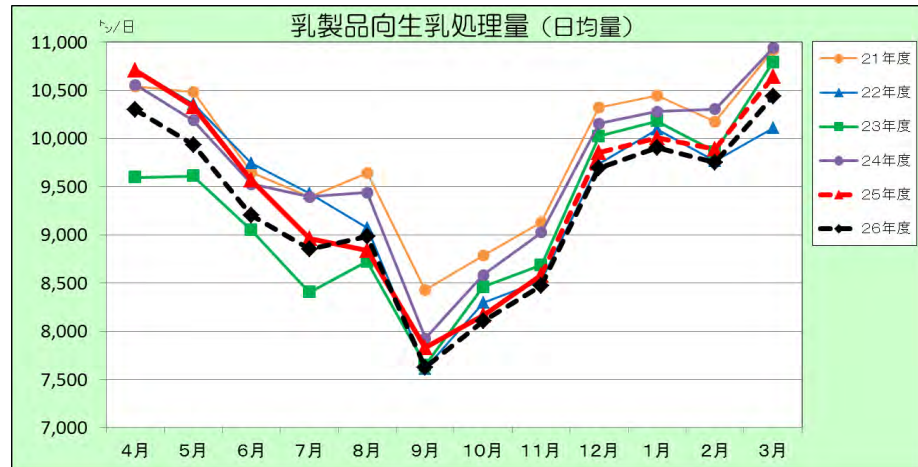
グラフ3-1：生乳供給量（日均量）



グラフ3-2：牛乳等向生乳処理量（日均量）



グラフ3-3：乳製品向生乳処理量（日均量）



4. 乳製品需給の動向

【特定乳製品(脱脂粉乳・バター等)需給予測の前提】

- ・脱脂粉乳・バターの生産量は、特定乳製品向処理見込数量(乳製品向処理量からその他乳製品向処理見込数量を差し引いて算出)に製造係数(直近の動向等を反映した数値)を乗じて算出。
- ・脱脂粉乳・バターの消費量は、過去の実績データの動向パターンに基づく、代替関係にある乳製品の処理見込数量等を変数に組み込んだ予測モデル(ARIMAモデル)による推計値を基本に算出。
- ・脱脂粉乳・バターの在庫月数は、当該月の在庫量を前年度の一ヶ月平均の消費量で割ることで算出している。

表4-1：平成26年度 脱脂粉乳の需給（見通し）

(千トン)

脱脂粉乳	生産量		輸入量 (売渡)	供給量		消費量		過不足 A+B-C	年度末在庫量 (民間在庫量)		
	A	前年比		B	A+B	前年比	C		前年比	月数	前年比
21年度	170.2	109.6%	6.1	176.3	113.5%	149.7	96.6%	26.6	69.7	5.4	161.7%
22年度	148.8	87.4%	1.0	149.8	85.0%	160.8	107.4%	▲11.0	58.7	4.7	84.2%
23年度	134.9	90.7%	0.0	134.9	90.1%	146.0	90.8%	▲11.1	47.6	3.8	81.1%
24年度	141.4	104.8%	0.0	141.4	104.8%	139.6	95.6%	1.8	49.5	4.1	103.9%
25年度	133.3	94.2%	8.7	142.0	100.4%	142.6	102.1%	▲0.6	48.9	4.2	98.8%
26年度	128.1	96.1%	8.2	136.3	96.0%	144.7	101.5%	▲8.5	40.4	3.4	82.7%

※26年度の輸入量は、カレントアクセス枠量からホエイ類輸入見込み量4.5千トン分を除いた残量を脱脂粉乳・バターで半量ずつ輸入した場合で仮定

表4-2：平成26年度 バターの需給（見通し）

(千トン)

バター	生産量		輸入量 (売渡)	供給量		消費量		過不足 A+B-C	年度末在庫量 (民間在庫量)		
	A	前年比		B	A+B	前年比	C		前年比	月数	前年比
21年度	82.0	114.0%	0.0	82.0	94.9%	77.5	100.0%	4.5	32.6	5.0	116.0%
22年度	70.1	85.5%	1.6	71.8	87.5%	83.7	108.0%	▲12.0	20.6	3.2	63.3%
23年度	63.1	89.9%	13.6	76.7	106.8%	78.2	93.4%	▲1.5	19.1	2.8	92.6%
24年度	70.1	111.2%	9.4	79.5	103.7%	75.1	96.1%	4.4	23.5	3.6	123.0%
25年度	67.4	96.2%	3.5	70.9	89.2%	71.2	94.7%	▲0.2	23.2	3.7	98.9%
26年度	64.8	96.1%	4.3	69.1	97.5%	74.5	104.6%	▲5.3	17.9	3.0	77.1%

※26年度の輸入量は、カレントアクセス枠量からホエイ類輸入見込み量4.5千トン分を除いた残量を脱脂粉乳・バターで半量ずつ輸入した場合で仮定

【乳製品需給の見通し】

26年度の加工原料乳生産者補給金の交付対象に「チーズ向け生乳」が加えられた中、その他乳製品(チーズ・生クリーム等)については、チーズや生クリーム・脱脂濃縮乳等の需要が堅調なことから、26年度の「その他乳製品向処理量」は、25年度と同程度で推移すると見込んでいる。

こうしたことから、26年度の「特定乳製品(脱脂粉乳・バター等)向処理量」は25年度を下回り、同様に脱脂粉乳・バターの生産量も25年度を下回る(脱脂粉乳128.1千トン・96.1%、バター64.8千トン・96.1%)ことが見込まれる。

対して、26年度の脱脂粉乳・バターの消費量は25年度を上回る(脱脂粉乳144.7千トン・101.5%、バター74.5千トン・104.6%)と見込まれており、カレントアクセス分の輸入数量を勘案した場合においても供給量が消費量を下回る(脱脂粉乳▲8.5千トン、バター▲5.3千トン)ことが見込まれる。結果として、26年度の在庫量は、脱脂粉乳・バターともに、25年度を下回る(脱脂粉乳40.4千トン・82.7%、バター17.9千トン・77.1%)見込みとなっている。

5. 国産生乳需給の動向

【国産生乳需要予測の前提】

- ・脱脂粉乳ベース及びバターベースにおける特定乳製品向需要量は、脱脂粉乳・バターの消費量の予測値から輸入量を差し引いた数量に製造係数(直近の動向等を反映した数値)を乗じて算出。
- ・上記の各々の特定乳製品向需要量に、その他乳製品向処理量を加算して乳製品向需要量を算出し、更に牛乳等向需要量を加算して、脱脂粉乳ベース及びバターベース2通りの国産生乳需要量を算出している。

表5-1：平成26年度 脱脂粉乳ベースの国産生乳需要量（見通し） (千トン)

脱脂粉乳 ベース	生乳供給量		国産生乳需要量				生乳供給量と 国産生乳需要量 の差 C=A-B		
	A	前年比	B	前年比	牛乳等向	乳製品向			
					前年比	前年比			
21年度	7,805	99.2%	7,488	95.2%	4,219	95.6%	3,269	94.8%	318
22年度	7,561	96.9%	7,694	102.7%	4,110	97.4%	3,584	109.6%	▲ 133
23年度	7,470	98.8%	7,604	98.8%	4,083	99.3%	3,521	98.3%	▲ 134
24年度	7,549	101.1%	7,526	99.0%	4,011	98.2%	3,515	99.8%	23
25年度	7,405	98.1%	7,413	98.5%	3,957	98.7%	3,456	98.3%	▲ 7
26年度	7,297	98.5%	7,402	99.9%	3,913	98.9%	3,489	101.0%	▲ 105

表5-2：平成26年度 バターベースの国産生乳需要量（見通し） (千トン)

バター ベース	生乳供給量		国産生乳需要量				生乳供給量と 国産生乳需要量 の差 C=A-B		
	A	前年比	B	前年比	牛乳等向	乳製品向			
					前年比	前年比			
21年度	7,805	99.2%	7,694	100.7%	4,219	95.6%	3,476	107.8%	111
22年度	7,561	96.9%	7,867	102.3%	4,110	97.4%	3,758	108.1%	▲ 306
23年度	7,470	98.8%	7,510	95.5%	4,083	99.3%	3,427	91.2%	▲ 39
24年度	7,549	101.1%	7,440	99.1%	4,011	98.2%	3,429	100.1%	109
25年度	7,405	98.1%	7,411	99.6%	3,957	98.7%	3,454	100.7%	▲ 6
26年度	7,297	98.5%	7,428	100.2%	3,913	98.9%	3,514	101.7%	▲ 130

【国産生乳需給の見通し】

26年度の「国産生乳需要量」（国内の総生乳需要量からカレントアクセス等輸入量に相当する生乳需要量を差し引いて算出）は、脱脂粉乳ベース（脱脂粉乳需要量を満たすために必要な生乳需要量）で7,402千ト、バターベース（バター需要量を満たすために必要な生乳需要量）で7,428千トと見込まれる。

現状見込まれる26年度の「生乳供給量」7,297千トと比較すると、脱脂粉乳ベースでは▲105千ト、バターベースでは▲130千トと、いずれも生乳供給量が国産生乳需要量を下回ることが見込まれる。

6. 需給動向を踏まえた今後の課題と対応について

(1) 生乳生産基盤の維持・強化

25年度は、国際的な原油価格・穀物価格等が高止まり傾向で推移したことや、為替相場も円安傾向で推移したこと等の影響もあり、生乳生産コストは上昇傾向で推移した。更に、乳牛資源が絶対的に不足していることに加え、猛暑や天候不順等の更なる要因も重なり、25年度の生乳生産量は、年度計では北海道・都府県ともに前年度を下回ることが見込まれている。

今後は、25年度期中において生産者乳価が値上げされたこと、政府における26年度の加工原料乳生産者補給金単価の引き上げ及び酪農経営安定・生乳需要基盤強化のための各種対策の強化拡充が図られたこと、生産者組織を中心とした生乳増産対策が取り組まれていること等から、26年度の生乳生産は徐々に回復することが期待されているところである。しかしながら、本見通しは、生乳生産量や乳牛頭数、授精頭数等の実績値を基にした統計学的推計による予測であり、新たな政策要因等がどの程度影響するかについて定量的数値として織り込むことが困難である。よって、本見通しでは26年度の生乳生産量は25年度を下回る水準としているが、搾乳牛頭数や1頭当たり乳量の増加等により、本見通しより増加（全国計で0.5～1%程度）すると考えられる。

こうしたことを踏まえ、今後、生乳需要に見合った安定的な生乳供給を図っていくためには、酪農生産者戸数の維持、離農農家からの乳牛継承や供用期間の延長等を通じた乳牛飼養頭数の増加、新規就農の促進、経営規模の拡大といった取り組みを着実に推進するとともに、酪肉近代化基本方針の策定や「新たな酪農乳業対策大綱」の検証の議論と併せ、酪農乳業の競争力強化、適正かつ合理的な価格形成、後継牛の確保、適切な飼養管理、自給飼料増産等の、将来を見据えた酪農生産基盤強化のための総合的なビジョンを酪農乳業が一体となって描き、これを促進していくことが肝要である。

(2) 牛乳等需要の拡大

26年度の牛乳等の需要は、全体としてはやや減少基調で推移する見込みである一方で、乳飲料やはっ酵乳については引き続き堅調な伸びが期待される。しかしながら、25年10月以降に実施された牛乳類の出荷価格改定に伴う小売価格の動向や、26年4月に控える消費税増税の影響が今後どのように顕在化してくるかについては不透明な部分が多いこと等から、需要動向には引き続き注視が必要である。

こうした現状を踏まえ、酪農乳業関係者には、消費者への理解醸成を引き続き強化することに加え、価値訴求を中心とした新たな市場開拓も含めた消費拡大のための取り組みを一体的に推進し、牛乳等の需要基盤強化に向けて積極的に取り組んでいくことが求められる。

(3) 乳製品供給体制の安定強化

26年度の乳製品需要については、その他乳製品の需要が堅調であるとともに、脱脂粉乳・バターの需要量も前年度を上回って推移する見込みとなっている。こうしたことから、見通されている乳製品生産量だけでは需要量を賄えない状況が見込まれる。また、海外の乳製品市場は、依然、需給ひっ迫と価格の高止まりが続いており、海外からの乳資源の調達もさほど容易ではない状況となっている。

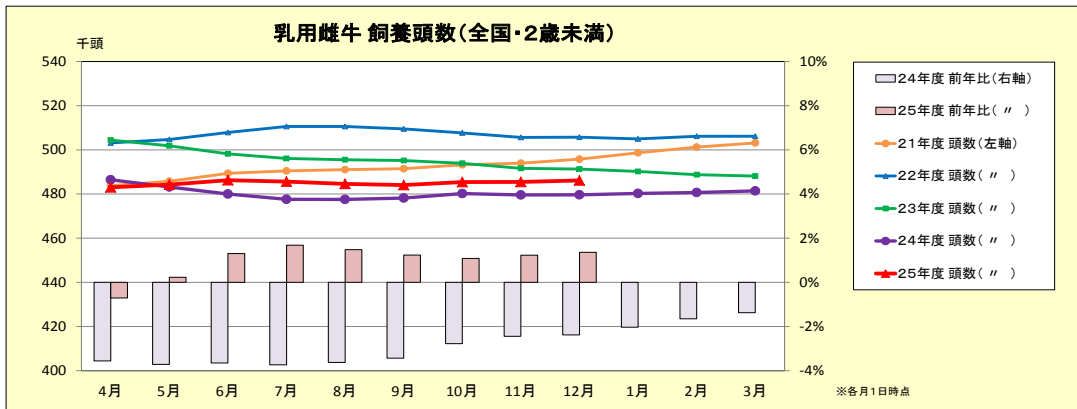
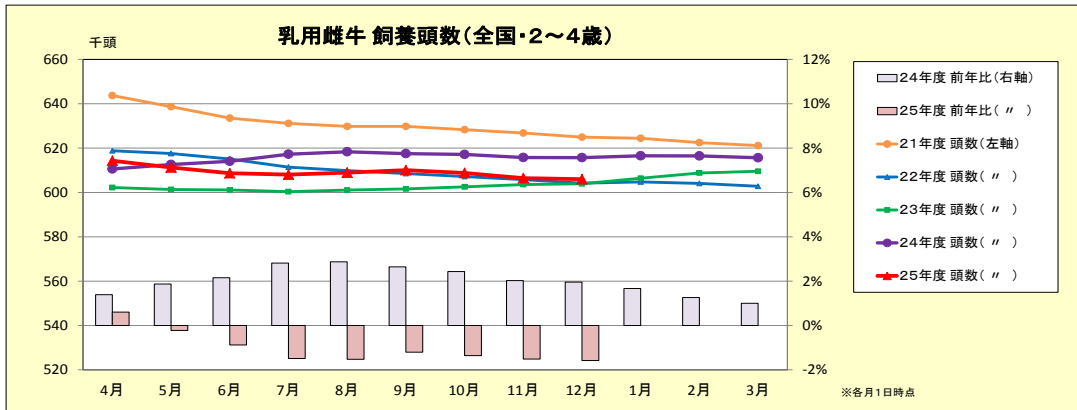
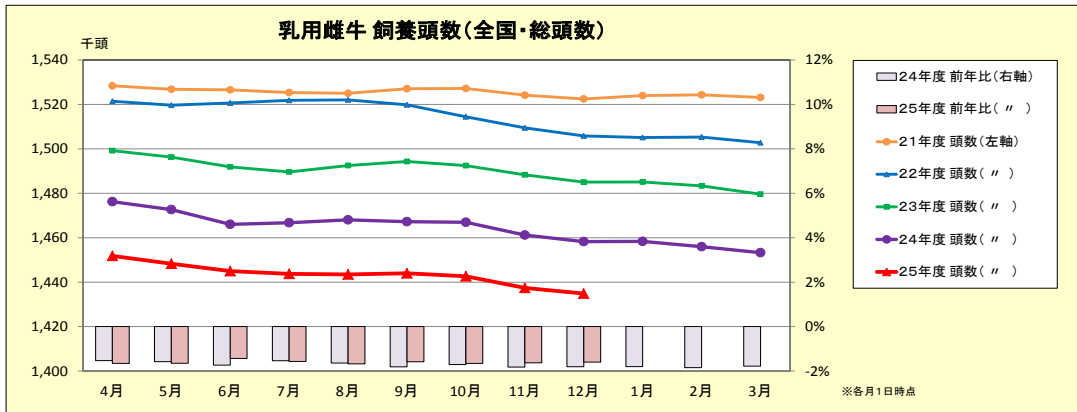
こうした状況が続けば、わが国の乳製品マーケットはチャンスロスによって需要基盤そのものを消失してしまう可能性があり、これがわが国酪農乳業にとっての極めて重要な懸案事項である。

業界の健全な発展のためには、需給のひっ迫に起因する市場の縮小といった事態は何よりも避けるべきであり、消費者、食品小売業、乳製品ユーザー等の信頼と期待に応えられるよう、乳製品の安定供給を確実に実施していくことが必要である。そのためには、政府と業界が連携して、生乳生産の増加に最大限の努力を傾注するとともに、カレントアクセス分輸入の早期対応に努める等の適切な輸入対策の実施、更には、的確な需給情報の発信、酪農乳業の取り組みに対する理解醸成、国産乳製品の品質や安全・安心面の価値訴求等に努めることが重要である。

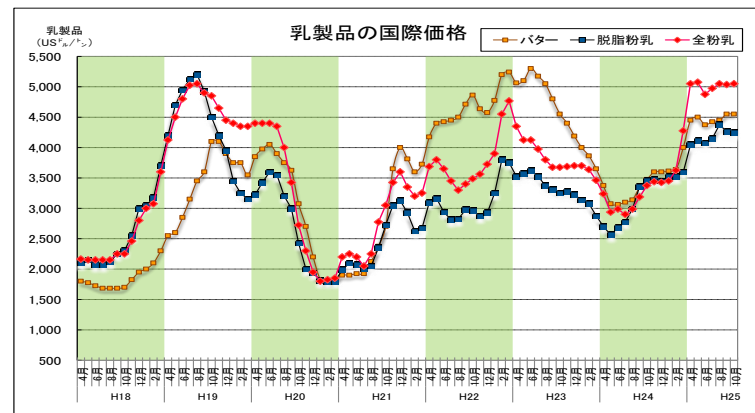
以上

《参考データ》

■乳牛頭数（全国）の推移（家畜改良センター 牛個体識別情報のデータを基に作成）



■乳製品の国際価格の推移（農畜産業振興機構HP掲載のデータを基に作成）



※JミルクHPにて、直近データを掲載。